

ガーデンふ頭再開発基本計画



平成 29 年 9 月
名古屋港管理組合

目 次

はじめに	1
第 1 章 取り巻く環境及び現況分析	3
1 - 1 ガーデンふ頭の変遷	
1 - 2 ガーデンふ頭を取り巻く状況	
1 - 3 現況分析	
1 - 4 関連計画	
1 - 5 ガーデンふ頭の役割	
第 2 章 将来像及び基本方針	19
2 - 1 目指す将来像	
2 - 2 基本方針及び機能配置の考え方	
第 3 章 再開発の実現に向けて	27
3 - 1 再開発の実現に向けた取組	
3 - 2 今後の進め方	
参考資料	35

はじめに

名古屋港は、1907年（明治40年）に開港した港です。熱田の浜（現在の熱田神宮の南あたり）が発祥の地ですが、取扱貨物量の増加や船舶の大型化に合わせて埋立てをしながら沖合への展開を進め、総取扱貨物量及び貿易黒字額が日本一の港へと発展しました。

名古屋港の内奥に位置する「ガーデンふ頭」もかつては物流の拠点でしたが、昭和50年代前半より親しまれる港づくりに向けて再開発を開始し、名古屋港水族館、ポートビル、臨港緑園などが整備されました。その後、約40年が経過した現在においても、名古屋港水族館を中心に多くの方々に訪れていただいています。

名古屋港の中で最も市街地に近く、広域からのアクセス性にすぐれたガーデンふ頭は、前面に海を望むことができ、クルーズ船をはじめ、港を行き交う貨物船や自動車専用船などの船舶が眺められるなど、みなとの景観や情緒を感じられる場所です。しかし、来訪者がガーデンふ頭を訪れる目的は、依然として名古屋港水族館が中心となっており、ガーデンふ頭にある他の施設や空間そのものの可能性を十分に活かしていないのが現状です。

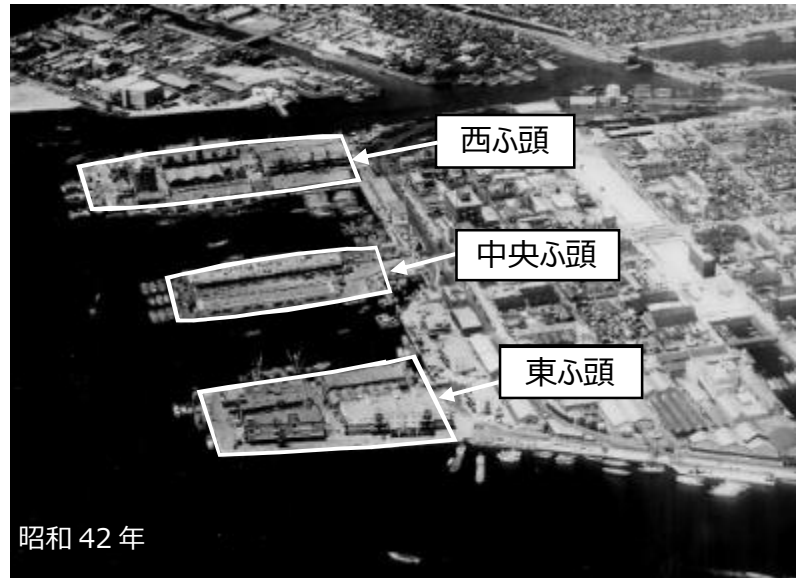
交流人口の増加が期待されている2027年のリニア中央新幹線の開業を見据えて、名古屋港水族館や親水性などのガーデンふ頭が持つ長所を最大限に活用しながら、さらなる賑わいを創出するための新たな魅力を創出していく必要があります。ガーデンふ頭全体が個性ある交流拠点として発展していくため、再開発の指針となる「ガーデンふ頭再開発基本計画」を策定いたします。

第1章 取り巻く環境及び現況分析

1-1 ガーデンふ頭の変遷

昭和期

ガーデンふ頭は、昭和初期に西・中央・東ふ頭が整備され、名古屋港の物流の拠点としての役割を果たしてきました。しかし、昭和30年代から40年代には稲永ふ頭や金城ふ頭が整備されたことにより、物流の中心が沖合のふ頭へ展開していきました。



資料) 名古屋港管理組合



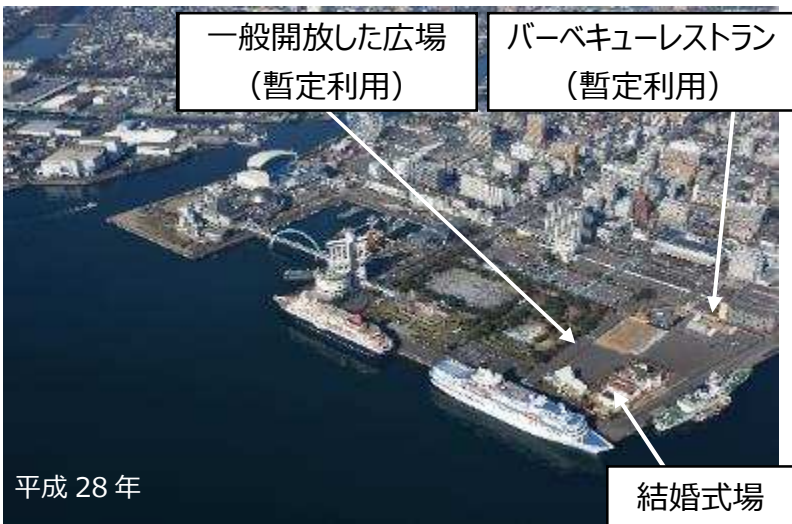
資料) 名古屋港管理組合

従来の港湾機能の場だけでなく、市民の親しめる港湾環境を創出するという観点から、「親しまれる港づくり懇談会」が設置され、昭和52年には、「親しまれる名古屋港づくりに関する提言」が答申されました。

その後、中央ふ頭と東ふ頭の間を埋立て、昭和58年にガーデンふ頭臨港緑園、昭和59年にポートビル、海洋博物館、昭和60年に南極観測船ふじがオープンしました。

平成期

平成4年に名古屋港水族館の南館と飲食・物販施設であるJETTYがオープン、平成13年には水族館の北館がオープンしました。



ガーデンふ頭東地区においては、平成17年に倉庫を改修したイタリア村がオープンしましたが、平成20年に閉鎖しました。現在は、暫定的な利用として、バーベキューレストランや一般開放広場として利用されています。

また、ガーデンふ頭内では、海の日名古屋みなと祭、音楽とアートのフェスティバル *Assembrijō・NAGOYA*、寄港船の一般公開など各種のイベントが開催されています。

1-2 ガーデンふ頭を取り巻く状況

(1) ガーデンふ頭の概況

① ガーデンふ頭の位置

ガーデンふ頭は伊勢湾岸自動車道の名港トリトンの北側に位置しており、名古屋市港区の市街地（築地地区）に隣接しています。

② 交通アクセス

ガーデンふ頭は、複数の交通手段でアクセスすることができます。

鉄道では、隣接する地下鉄名古屋港駅まで、名古屋駅から 19 分で移動可能で、都心からのアクセスに優れた場所にあります。

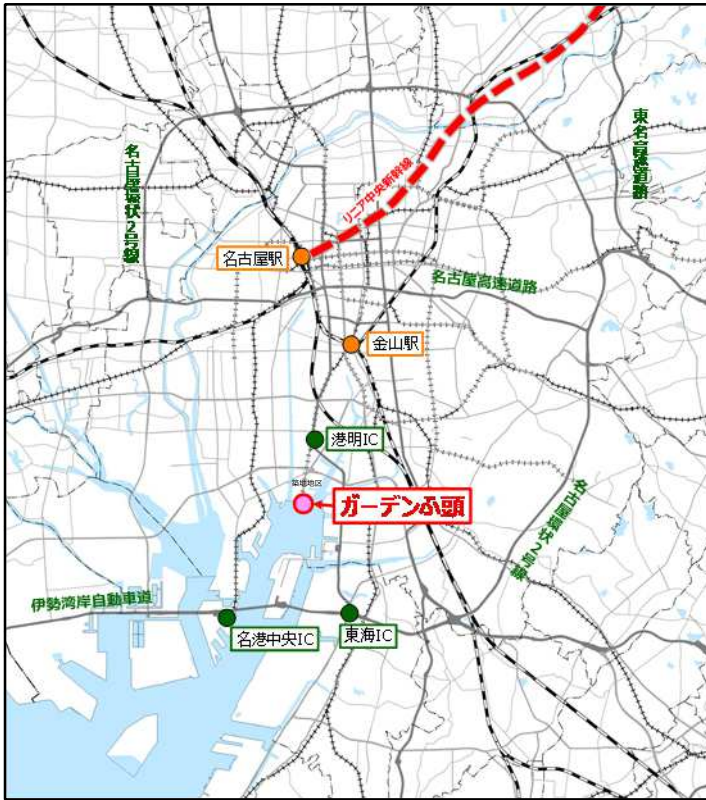
自動車では、伊勢湾岸自動車道の名港中央 I C 又は東海 I C からは 16 分、名古屋高速道路の港明 I C からは 8 分で移動できます。

船では、レゴランドなどがオープンした金城ふ頭へは定期航路が就航しており、30 分で移動できます。また、「ささしまライブ 24 地区」の「まちびらき」にあわせ、隣接する中川運河の堀止地区とガーデンふ頭を結ぶ航路の試験運航を行う予定です。

■ 広域図



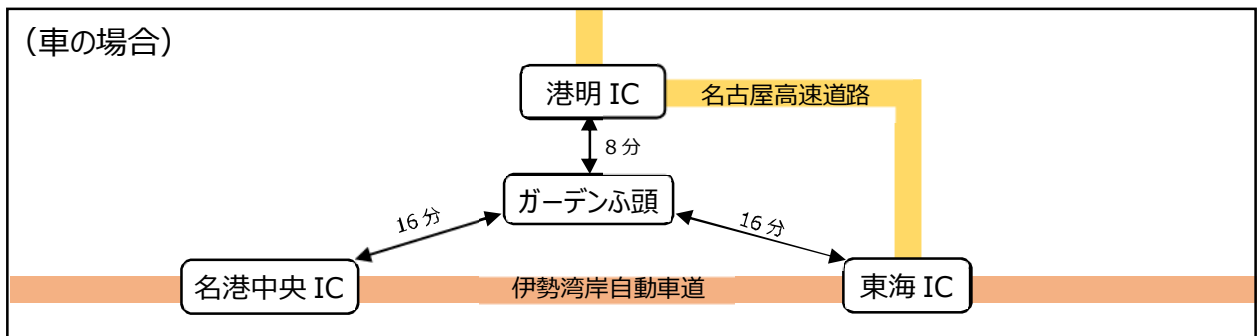
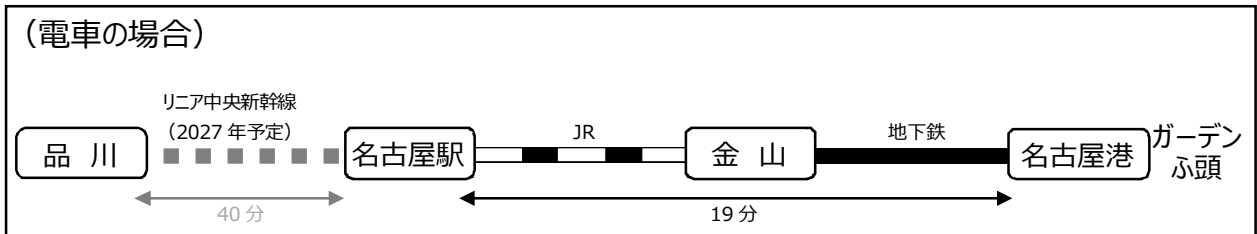
■ ガーデンふ頭周辺図



■ 水上交通ネットワーク



■ 移動時間



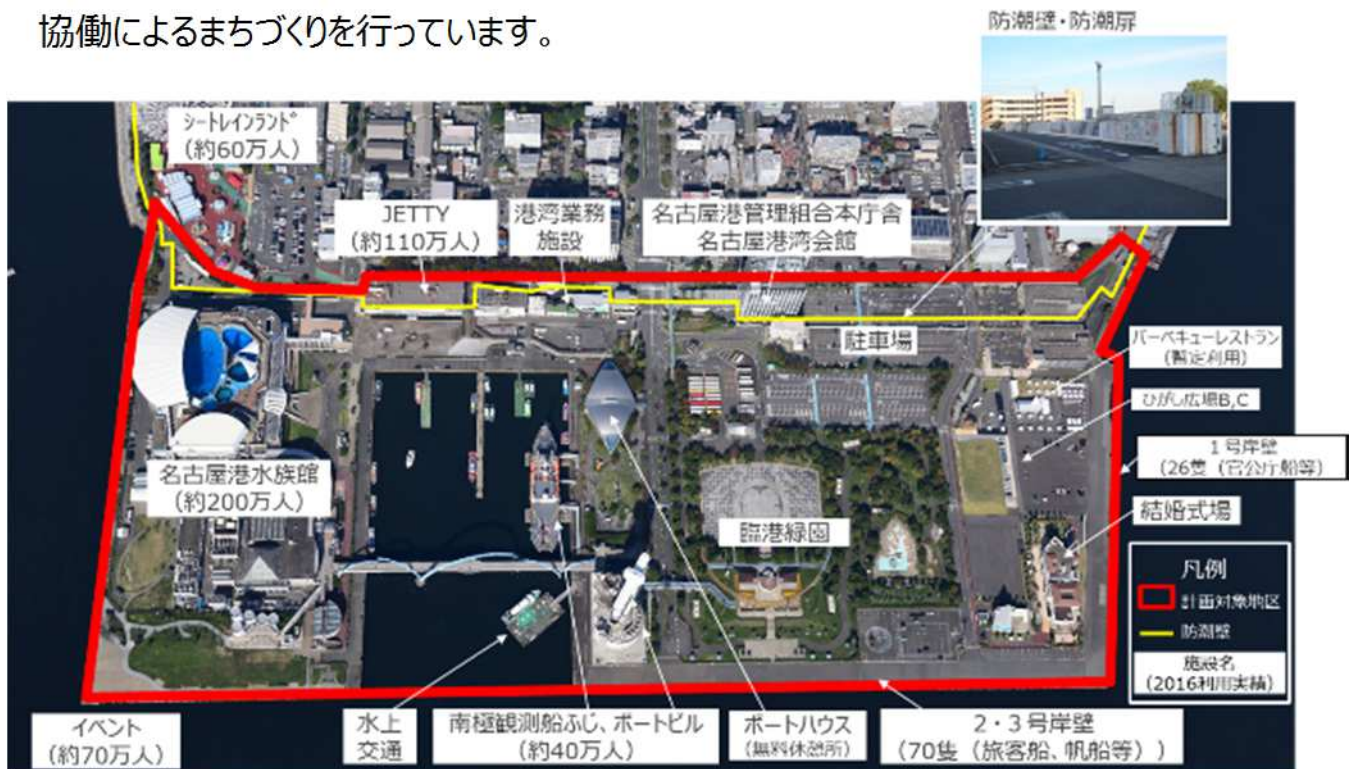
※検索エンジン：Yahoo!地図 ※鉄道駅：徒歩・乗り換え時間含む、時間指定なし
 ※高速IC：出入り口が別の場合は最寄り

③ 基本計画の対象地区

ガーデンふ頭の陸域の広さは 22.6 万㎡で、ナゴヤドーム 4.7 個分の大きさにあたります。

西側には、年間約 200 万人が訪れる名古屋港水族館をはじめとして、JETTY、南極観測船ふじなどの施設があり、ふ頭内では、各種のイベントが開催されています。ふ頭南の公共岸壁には、年間 70 隻のクルーズ船等が着岸しており、中央部、水族館の南、通路沿いなど各所に緑地が配置されています。また、ガーデンふ頭の北端には、背後地域を高潮や津波から防護するための防潮壁・防潮扉が配置されています。

隣接している築地地区には、名古屋港湾合同庁舎や港湾関連企業の本社・支社などの業務機能が集積しています。また、港まちづくり協議会等が住民と行政の協働によるまちづくりを行っています。



(参考) ガーデンふ頭で行われた主なイベント (2016年)

開催月	イベント名	参加者数
1月	新春みなとカーニバル 2016	13,000人
3月	アッセンブリッジ・ナゴヤ 2016 プレイイベント	3,700人
4月	築港祭 2016	15,000人
5月	よさこい夢まつり 2016	60,000人
7月	海の日名古屋みなと祭	390,000人
8月	ポート天国 in 名古屋港	180人 (出場者数)

開催月	イベント名	参加者数
9・10月	アッセンブリッジ・ナゴヤ 2016	12,000人
10月	名港水上芸術花火 2016	15,186人 (協賛席)
11月	港区区民まつり「みなと遊友フェスタ 2016」 フレンドリーポート 2016	62,000人 30,000人
12月	名古屋港 FIREWORKS by NAKED -雪花火-	36,092人
	ISOGAI 花火劇場 in 名古屋	75,000人

(2) 社会情勢の動向

① 人口減少・少子高齢化社会の進展

我が国の人口は増加を続けてきましたが、2015年国勢調査で減少に転じ、今後もこの傾向が続くと見込まれています。少子高齢化に伴い、経済への影響が懸念されております。

<我が国の人口の推移>



資料) 平成28年度版 情報通信白書

② インバウンド観光の増大

我が国を訪れる外国人旅行者は増加傾向にあり、過去5年間で約4倍(622万人→2,404万人)に急増しています。

<訪日外国人旅行者数の推移>



資料) 平成29年度版 観光白書

③ 観光需要の質的变化

これまでの物見遊山的な観光では、多様化する旅行者のニーズに対応できなくなってきており、体験型・交流型の要素を取り入れた観光へのシフトが進んでいます。

<観光立国推進基本計画に位置付けられたニューツーリズムと観光庁の取組>

種類	定義	観光庁のこれまでの取組
エコツーリズム	自然環境や歴史文化を対象とし、それらを損なうことなく、それらを体験し、学ぶもの(ホエールウォッチングや植林ボランティアツアーなど)	・エコツーリズム推進法(H20)の主務大臣として、地域の取組への助言や地域の策定するエコツーリズム推進全体構想の認定
グリーン・ツーリズム	農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動(農作業体験、農林漁家民泊、食育など)。	・農林漁家民宿おかささん100選の実施(H19～農水省連携) ・グリーン・ツーリズム推進連絡会議の開催(H21、農水省連携) ・観光圏における商品化の取組(富良野美瑛広域観光圏など)
文化観光	日本の歴史、伝統といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とするもの	・外国人留学生参加によるモデルツアー等の実施(17年度～19年度に京都、山形、東京で実施) ・博物館を対象とした外国人ひとりあるき点検隊の実施(H21)
産業観光	歴史的・文化的価値のある工場等とその遺構、機械器具、最先端の技術を備えた工場等を対象とした観光で、学びや体験を伴うもの	・産業観光推進懇話会(18年度)による課題の整理や推進方策のとりまとめ ・産業観光事例集の作成(20年度)
ヘルスツーリズム	自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持するもの	・健康長寿社会の実現に向けた地域の滞在型観光の推進方策に関する調査の実施(19年度 厚労省と連携) ・熊野古道健康ウォーキング(和歌山)、食・健康・環境をテーマとした商品化(北海道(支笏湖周辺等))等の取組み
その他	フラワーツーリズムやフィルムツーリズム等長期滞在型観光	・地域の特性を生かした「ニューツーリズム」の創成・普及 ・長期滞在型観光に係る実証事業の実施(18年度、別府・雲仙等)

資料) 観光庁

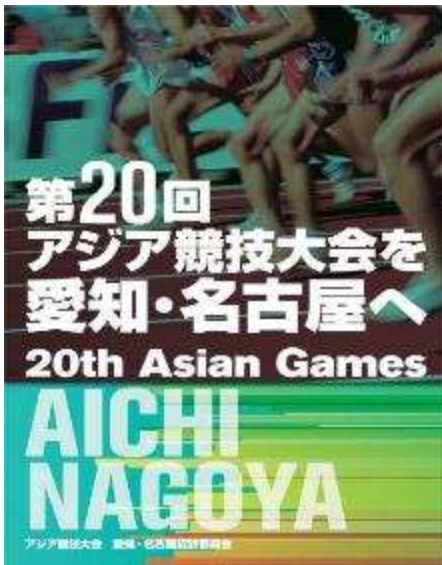
④ リニア中央新幹線の開業とアジア競技大会開催のインパクト

2026年には愛知県及び名古屋市の共催による「第20回アジア競技大会」が開催され、愛知県にはアジア諸国から選手・関係者及び応援の観光客が多数来訪することとなります。また、2027年には、交流圏が大幅に拡大するリニア中央新幹線の東京－名古屋間が開業する見通しです。

■ 第20回アジア競技大会

2026年開催予定の第20回アジア競技大会の開催地が愛知・名古屋に決定されました。

期間は2026年9月18日から10月3日の16日間を仮定し、瑞穂競技場をメイン会場に51会場（調整中の1会場を含む）を予定しており、36競技が実施見込です。



資料) 愛知県 HP

■ リニア中央新幹線開通

2027年にリニア中央新幹線の東京－名古屋間が開業予定であり、リニア名古屋市ターミナル駅が名古屋駅の地下に設置され、名古屋駅の拠点性や利便性がさらに高まることとなります。



資料) 鉄道・運輸機構 HP



資料) 名古屋市 HP

⑤ ガーデンふ頭周辺の環境変化

ガーデンふ頭の北約 2km に位置する港明地区では、住宅、にぎわい・交流、スポーツ・レクリエーションゾーンなど複合的な機能で構成される「みなとアクルス」の整備が進められています。

ガーデンふ頭の南西約 6km に位置する金城ふ頭では、名古屋市モノづくり文化交流拠点構想に基づき、2011 年に「リニア・鉄道館」、2017 年には「レゴランド・ジャパン」及び「メイカーズ ピア」がオープンしました。

〈みなとアクルス施設案内〉



資料) みなとアクルス公式サイト

〈モノづくり文化交流拠点構想〉
(金城ふ頭地区配置図)



資料) 名古屋市 HP

1-3 現況分析

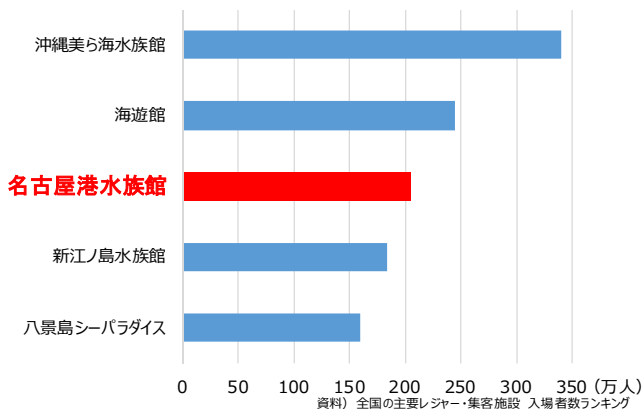
ガーデンふ頭の現況を、強み・弱み・機会・脅威に分けて以下のように整理しました。

強み

○水族館は中部圏屈指の集客力

名古屋港水族館は、全国の水族館で3番目の入場者数

＜水族館の集客ランキング（2015年度）＞



○海と緑が一体となった景観

良好な景観、環境を演出できるポテンシャル



○名古屋都心から至便

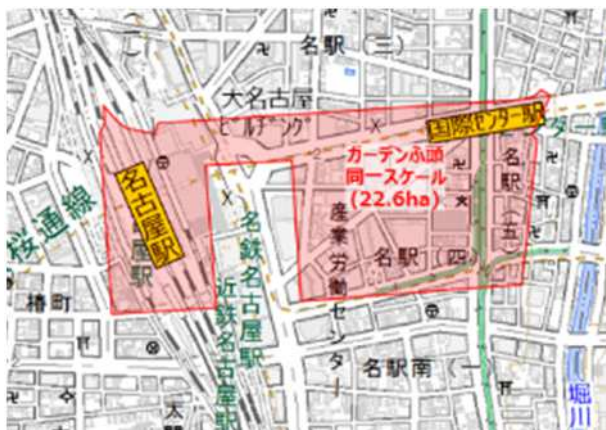
愛知県内の主要観光施設中で比較すると、ガーデンふ頭は都心からのアクセスが容易

＜愛知県の主要観光施設（入込客数ベスト20）＞



○広大な土地の活用ポテンシャル

名古屋駅周辺と比較しても広大な開発用地



○近隣においてまちづくり活動が活発

港まちづくり協会によるまちづくり活動

MUSIC / ART / MINATOMACHI ASSEMBRIDGE NAGOYA 2016

2016年9月22日～10月23日

名古屋の港まちを舞台にした、音楽とアートのフェスティバル。コンサートホールや美術館ではなく、いつものまちが会場となり、世界的なクラシック音楽や現代アートの演奏が人々や風景と混ざりあう。家族でも楽しめるキッズプログラムも多数用意。

みなとイルミネーション2014「みなとパズール」

2014年11月15日(土)

3か所のマーケット(築地口商店街会堂、港横広場公園会堂、水族館南側緑地会堂)と、4つのステージ(築地口商店街、港横広場公園、JETTY広場、水族館南側緑地)で開催

「第三回 名古屋みなとをどり」 2014年3月1日(土)

ポートハウスを会場に、日本舞踊からアフリカ音楽まで、バラエティーに富んだアーティスト達が出演し、本物に触れみんなと踊る楽しい一夜

資料) 港まちづくり協議会

弱み

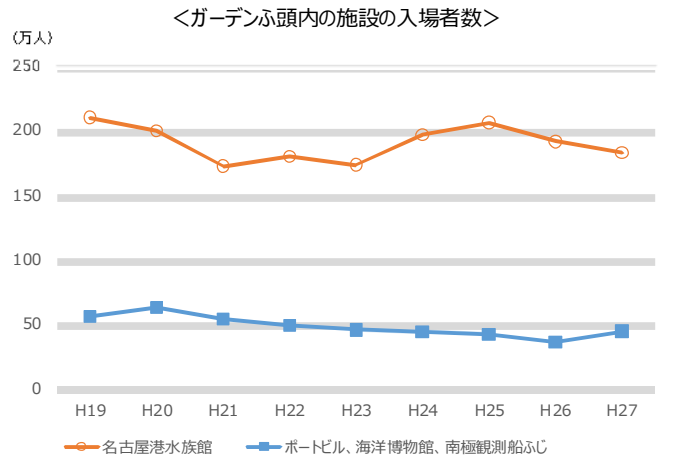
○集客機能と業務機能が混在

港湾業務機能が集客施設の中央にあり、連続性や景観を損なっている



○既存施設の老朽化・陳腐化

名古屋港水族館と比べると、ポートビル等の既存施設は、利用者が少なく、水族館の集客力をいかしきれていない



○海・船舶への視認性がよくない

植栽や垣根、建物等により、海・船舶が見えづらい場所がある

＜地下鉄出口からは海が見えない＞



＜停泊中のクルーズ船の全景が見えづらい＞



○各施設がバラバラで統一感がない

名古屋港水族館、ポートビル、ポートハウスなどの各施設及びその周辺は外観に統一感がなく、全体を包括する分かりやすさがない

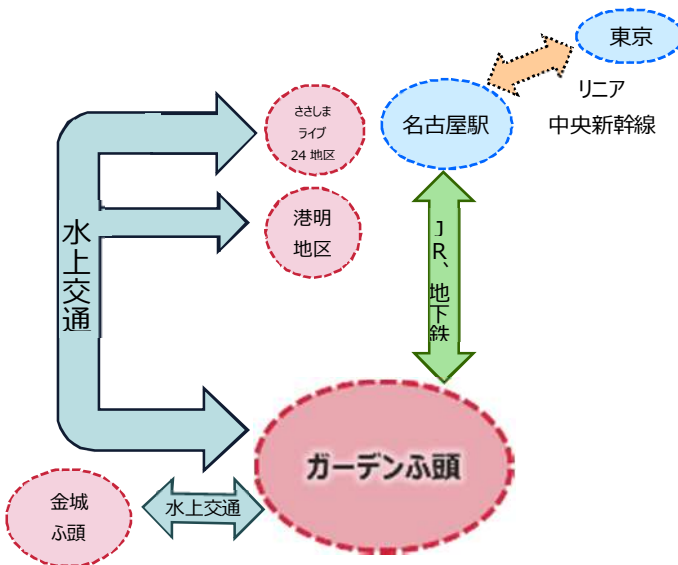
＜駐車場から名古屋港水族館までの動線＞



機会

○リニア・水上交通など広域交通条件の向上

交通条件の向上により、交流・経済の活性化が期待



○アジア競技大会等の開催

交流人口の拡大や国際交流の促進などに期待

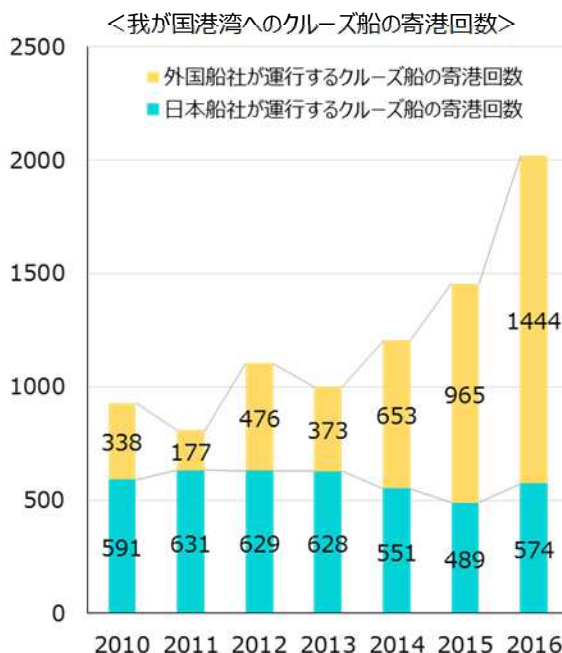
参加国	45カ国の国と地域
開催期間	2026年9月18日～10月3日
競技種目	36競技
競技会場	瑞穂競技場を中心に51会場
選手村の整備	選手始め大会関係者約15,000人の滞在場所として整備を予定。

■過去の大会について（直近・国内の大会）

開催年	開催都市	参加国数	参加選手数	観客数
2014年	仁川	45	9,501人	約150万人
1994年	広島	42	6,828人	約112万人

○クルーズ船寄港の増加

クルーズ船の寄港により増加する来訪者の受け皿に



注) 2016年の値は、港湾管理者からの聞き取りによる速報値であり、今後変動する可能性がある。資料) 国土交通省港湾局 HP

○外国人旅行者の増大

全国的にインバウンド観光が増大傾向

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、大膽な「改革」を断行。

	(2012年)	(2015年)
・訪日外国人旅行者数は、2倍増の約2000万人に	836万人	1974万人
・訪日外国人旅行消費額は、3倍増の約3.5兆円に	112846億円	316477億円

資料) 観光庁 HP

○新たな観光需要の発生

多様化する観光客のニーズに応える新しい体験型観光が振興

【鹿児島県 指宿海水浴】

温泉資源などを生かし、都会に住む女性をターゲットとしたヘルスツーリズム

「いぶすき海洋浴」を構成する3要素

- 1. 「指宿タラソテラピー」**
健康効果、美し効果、美容効果は、鹿児島大学医学部等の専門機関による調査・研究の結果で証明済みの「天然のミネラル」豊富な「美人湯」として知られる指宿温泉の塩湯
- 2. 海洋フィットネス**
朝つら、ピーチ・ベリー、ノルディックウォーキング、ビーチヨガなど、心地よい海風に吹かれながらのフィットネス
- 3. 癒しとレジャー**
「日本のモンサンミッシェル」と呼ばれ、あびこつ数と数と「流されても流されてもつながる島」として、「縁結び」「時」の象徴として認知されつつある「知床ヶ島」の散策

【広島県 カメラ女子旅】

観光客自身がSNSなどにより情報を発信することに注目し、観光資源をフォトコンテストなどを通じて広める取組み

世羅高原

高原の気候をいかした「花」「食」「自然」「街並み」豊かな自然観光資源

既存の観光資源を活用し、地域の魅力を写真をテーマに女性目線で再発見

インターネットでのシェア、口コミを簡単しやすい「写真」を活用した旅行者自身による情報発信

SNSを活用することで旅の後も参加者となつがる仕組みづくり。ピーターへ

カメラびととめぐる **カメラ女子旅**

「写真」を核とした事業が拡大中

資料) 観光庁 HP

脅威

○近隣の大規模集客施設の開発による
来訪者減の懸念

金城ふ頭では「レゴランド」等がオープン、港明地区ではららぽーとなどがある「みなとアクルス」が整備中

<レゴランドジャパン>



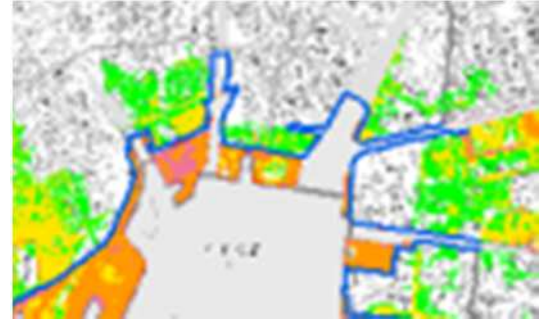
<みなとアクルス>



○津波・高潮等による自然災害

大規模な津波や高潮による浸水が想定

<浸水予測図>

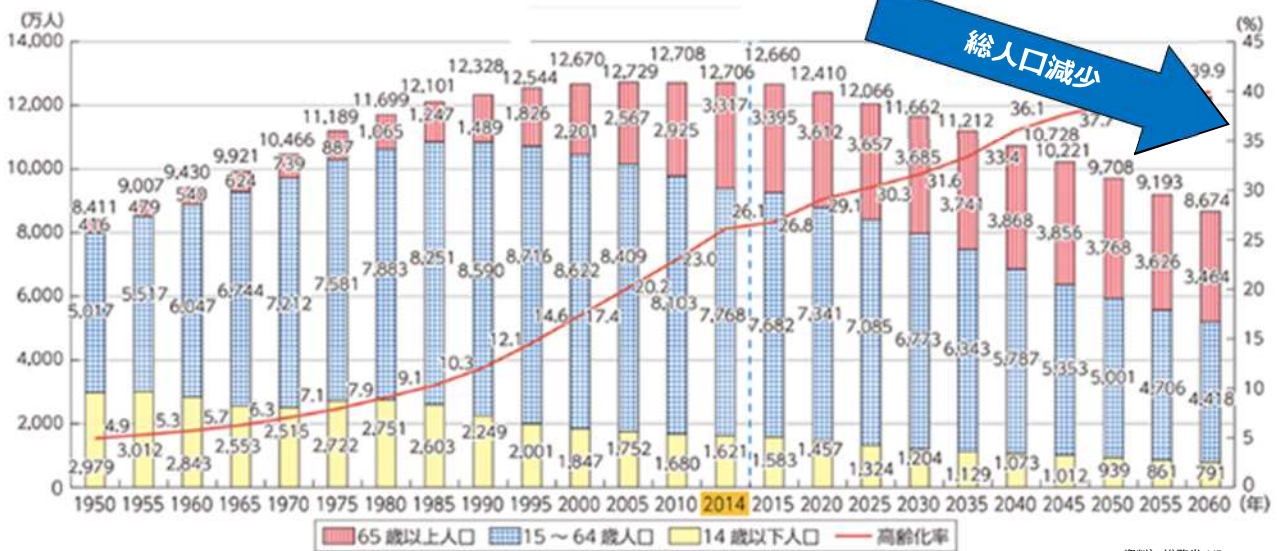


※台風時満潮位における伊勢湾台風クラス

資料) 愛知県 HP

○人口減少社会における交流人口の減少

人口減少・少子高齢化社会に対応し、広域から人を集める必要

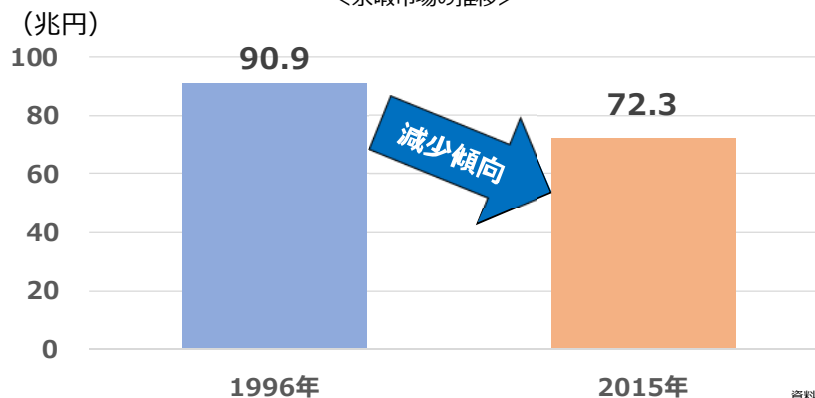


資料) 総務省 HP

○物販関連の支出が減少

余暇市場はピークであった1996年より減少傾向

<余暇市場の推移>



資料) レジャー白書 2016 より

1-4 関連計画

《明日の日本を支える観光ビジョン（平成28年）》【国土交通省観光庁】

観光は、真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱であるとの認識のもと「観光先進国」の実現

《「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」（平成29年）》【国土交通省港湾局】

■ 今後の港湾の進むべき方向

- 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理
 - ・ 地域の活力を支える物流、産業空間の形成
 - ・ 美しく・文化性に富んだ親しまれる港湾空間の形成
 - ・ 観光や海洋性レクリエーションを核とした交流空間の形成
 - ・ 港湾空間の再編
- クルーズ船の受入れの促進

《あいち観光戦略（平成28年）》【愛知県】

- 目指す姿 発見、感動、伝えたい観光県－あいち
- 戦略
 - I：訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入体制の強化
 - II：観光資源の充実とブランド化の推進
 - III：観光交流拠点県としての機能強化
 - IV：MICE・スポーツ大会を通じた誘客推進
 - V：戦略的な観光ひとづくり

《名古屋市魅力向上・発信戦略（平成29年）》【名古屋市】

- 基本理念 名古屋のブランド力をさらに向上させ、新たな「名古屋ブランド」を確立します
名古屋の魅力資源を磨き上げ、市民のまちへの愛着や誇り（シビックプライド）を高め、市民による名古屋の魅力発信を進めます。
産学官民が連携し、更なる名古屋の魅力向上・発信を目指します。

《名古屋港長期構想（平成19年）》【名古屋港管理組合】

- 基本目標：うるおいと魅力のある港湾空間の形成

《名古屋港港湾計画（平成27年）》【名古屋港管理組合】

- 方針：魅力ある交流空間と良好な港湾環境の形成

《築地ポートタウン計画（平成27年）》【名古屋市・名古屋港管理組合】

- 将来像：市民に親しまれる港・世界につながる交流拠点・個性ある港まちづくり

1-5 ガーデンふ頭の役割

愛知県や名古屋市では、リニア中央新幹線の開業を見据えて、観光拠点のブランド化に向け、観光資源の発掘や磨き上げなどに取り組んでおり、ガーデンふ頭においても個性を高めていくことが必要です。

近隣の金城ふ頭や港明地区において、にぎわい拠点の開発が進められている中、その中間に位置するガーデンふ頭がそれらの地区と有機的に繋がることできれば、ガーデンふ頭を中心として、相乗効果が発揮された一つの大きな交流拠点となることが可能です。

そのためには、愛知県・名古屋市の観光戦略にあわせて、これまでのにぎわいに加えて、海と緑といった景観をいかした親水性にあふれたみなとらしい魅力を磨くこと、また、他地区にはない憩いと癒しの非日常空間を提供することが求められます。

ガーデンふ頭の役割

- 海と緑といった景観を活かした“みなと”を体感できる場を提供
- 憩いと癒しの親水性にあふれた非日常空間を提供
- 愛知県・名古屋市の観光戦略の施策に貢献

(参考) 愛知県・名古屋市の観光戦略

■あいち観光戦略（2016年策定）

戦略Ⅲ 観光交流拠点県としての機能強化

“大型旅客船が寄港できる港を擁する本県の特性を生かし、観光交流拠点としての機能を強化”する。

■名古屋魅力向上・発信戦略（2017年策定）

戦略2 デスティネーションづくりとして、名古屋駅・ささしま地区、栄地区、名古屋港地区のエリアプロモーションを推進していく。

第2章 将来像及び基本方針

2-1 目指す将来像

ガーデンふ頭では、現在、中部圏屈指の集客力を誇る名古屋港水族館がにぎわいをけん引していますが、今後の社会情勢に対応しながら、名古屋港の交流拠点であり続けるためには、更なる魅力の創出が不可欠です。

そのためには、リニア中央新幹線の開業や新たな観光需要が発生しているこの機会を捉え、季節や時間帯を問わず、水族館をはじめとしてガーデンふ頭全体に多くの人々に来てもらえるよう、より一層のにぎわいを創出していく必要があります。また、みなとらしい景観や海辺の緑地や水域の活用など親水性をいかし、どこからでもみなとを感じられる魅力的な空間とするなど、この地区ならではの新たな魅力を創出していく必要があります。

以上のことから、ガーデンふ頭が目指す将来像として2つのコンセプトを設定します。

コンセプト1

みんなが楽しめるにぎわい空間の形成

名古屋港水族館をはじめ、ガーデンふ頭により多くの人々に来てもらい、来訪者がみなとを体感し、満足してもらうことを目指します。

コンセプト2

ゆったりと過ごせるくつろぎ空間の形成

県民・市民、地域の人が憩い、くつろげるガーデンふ頭の実現を目指します。

2-2 基本方針及び機能配置の考え方

再開発にあたっては、ガーデンふ頭特有の景観に配慮し、どこからでもみなとを感じる事ができる魅力的な空間にしていくことや、海に面した親水性の高いエリアであることを踏まえて、津波や高潮からの安全を確保することが前提となります。また、既存機能が配置されているエリアを再開発するには、ふ頭中央部に位置する港湾業務機能、船だまり、北東部の一角を占める駐車場を、具体的な開発内容に応じて、ふ頭外周や他地区へ移転することも必要になります。

将来像であるみんなが楽しめるにぎわい空間及びゆったりと過ごせるくつろぎ空間の形成に向けては、ガーデンふ頭の強みである名古屋港水族館を中心に集客力を向上させ、多くの人を呼び込むことが必要です。また、これまでのにぎわいに加えて、3方が海に面し、緑豊かな環境を最大限にいかしたくつろぎの場を提供することで、ガーデンふ頭を訪れる目的を多様化し、何度も訪れたい魅力を生み出していくことが重要です。

これらを踏まえて、「多くの人々を呼び込むにぎわいの創出」、「人々が長くふ頭に滞在できるくつろぎの場の提供」の2つを基本方針として設定します。

(1) 多くの人々を呼び込むにぎわいの創出

多くの人々を呼び込むには、にぎわいをけん引している名古屋港水族館の集客力の向上を図るとともに、飲食物販機能の拡充など来訪者へのサービス機能の強化を図ります。みなとらしさを感じられる特別な景観であるクルーズ船に対する利便性を向上します。また、既存の機能の強化に加え、更に多くの人を呼び込める新たな施設の導入を図ります。さらに、水上交通の拡充などにより、近隣のにぎわい拠点との連携を図り、回遊性の向上を図ります。

■ 海洋文化・海事思想の普及による集客力の強化

名古屋港水族館における海洋生物の展示や名古屋港の歴史・役割などに関する展示などを通じた海洋・海事文化にふれあう場の提供、体験プログラムの実施、ウミガメ類をはじめとした水生生物の保護や繁殖を目的とした研究活動など、観光施設としてだけでなく、社会教育施設としての役割も担いながら、魅力あふれる多彩な展示・イベントの開催や積極的なPRの実施などにより、集客力の強化を図ります。

<海洋生物の展示>



<体験プログラム>



<保護・研究活動>

- 名古屋港水族館の研究実績
- ・世界で初めて、アカウミガメやタイマイの室内環境下での産卵とふ化に成功
 - ・エンペラーペンギン、ジェンツーペンギン、ヒゲペンギン、アデリーペンギンの4種を飼育
 - ・国内で初めてペルーガの繁殖に成功
 - ・カマイルカの出産に成功
 - ・シャチの出産に成功
 - ・バンドウイルカの出産に成功



カメ類繁殖研究施設

<操船シミュレータ>



<コンテナに関する展示>



<歴史に関する展示>



■ 来訪者へのサービス強化

多くの人を訪れる水族館などと連携した飲食物販機能を拡充します。また、視認性がよく回遊性の高い空間を形成し、ホスピタリティ※の向上を図ります。

※ホスピタリティとは、心のかもったもてなし、手厚いもてなし、歓待、または歓待の精神のこと。

<飲食・物販機能のイメージ>



福岡県北九州市

<飲食機能のイメージ>



東京都品川区

■クルーズ船の利便性向上

ガーデンふ頭の南に位置する公共岸壁は、クルーズ船、帆船など年間70隻（2016年）の船舶に利用されています。船舶は、みなとらしさを感じられる特別な景観であり、特にクルーズ船は、それを見ることを目的に人が訪れ、その美しい姿はガーデンふ頭のイメージを向上させます。よりたくさんの船舶が着岸できるよう既存の係留施設における受入機能を強化するなど、クルーズ船の利便性向上を図ります。

<飛鳥Ⅱ>



<ばしふいつくびいなす>



<にっぽん丸>



■近隣のにぎわい拠点との回遊性の向上

道路や鉄道アクセスの利便性をいかすとともに、水上交通ネットワークの拡充などにより、金城ふ頭や港明地区など近隣のにぎわい施設との連携や港エリアの回遊性の向上を図ります。

<水上バス>



<シャトルバス>



先進事例：水上バス（東京都）

東京都公園協会では、臨海部周辺及び荒川・隅田川周辺の観光地を周遊できるような水上バス路線を整備しています。



■新たな集客機能の導入

既存の船だまりをにぎわい機能の導入が可能な水域へと転換することや、規制緩和を行うことにより、体験型観光機能など、ガーデンふ頭のにぎわいをけん引する新たな集客機能の導入を図ります。

(2) 人々が長くふ頭に滞在できるくつろぎの場の提供

ガーデンふ頭の大きな魅力のひとつである海辺の広大な緑地エリアを最大限に活用し、緑地・広場へ行くことが目的となるよう機能の向上を図ります。また、緑地や源泉などの既存機能を活用し、快適に長時間過ごせるような新たな機能の導入を図ります。

■ 緑地・広場機能の向上

ガーデンふ頭臨港緑園は、いまから 40 年前に整備された緑地です。イベントが開催できるステージや芝生広場が配置されており、来訪者の憩いの場として利用されています。

親水性の高いこの空間を最大限にいかせるよう、飲食機能の導入や緑地が来訪の目的の場となるような機能を付加するなど、緑地・広場機能の向上を図ります。

<のんびり過ごせる緑地のイメージ>



資料) 富山県 HP

<機能が付加された緑地のイメージ>



資料) フレイヴル (大阪天王寺公園)

先進事例：富岩運河環水公園

富岩運河環水公園は、富山市の玄関口である JR 富山駅北地区における遊休地を、民間活力の活用により、にぎわいある水辺の公園整備を目指して整備され、1997 年に開園しました。その後も段階的に開発が進み、2007 年には公園内に小運河と人工島「あいの島」が完成、2008 年にはスターバックス富山環水公園店がオープンし、スターバックスのストアデザイン賞で最優秀賞を受賞、「世界一美しいスターバックス」と称されています。また、富山市西中野にあった富山県立近代美術館が富山県美術館として環水公園西地区に移転新築し、2017 年 3 月 25 日に一部開業、8 月 26 日にオープンしました。

公園内では、富岩運河を船で遊覧する富岩水上ライン運河クルーズがほぼ毎日運行されているほか、水辺と芝生に囲まれた野外劇場では、小運河をバックに式典、公演、音楽コンサート、演劇など多目的に利用されています。



資料) 富山県 HP



資料) (c)富山県美術館

■ 滞在時間を増やすような新たな機能の導入

ガーデンふ頭の東側地区の海際には、名古屋市内で唯一の自噴の源泉があります。現在は活用されていませんが、これを活用すれば温浴機能の配置が可能です。また、緑地や広大なエリアを活用したスポーツ関連機能の配置も可能です。また、ガーデンふ頭や周辺開発で長く滞在できる場合には、宿泊機能も必要になります。このような機能を積極的に導入するため、規制緩和などについても検討を進めていきます。

<温浴機能のイメージ>



ホテルシーパレスリゾート

<スポーツ関連機能のイメージ>



tonarino (名古屋市名城公園)

先進事例：名城公園 tonarino

都市公園である名城公園は、「公園を「つくり、守る」から、公園を「育て、生かす」という「公園経営」へのコンセプト転換を図る方針により、公園の営業施設の事業計画・整備及び管理運営を行う事業者を名古屋市が募集し、選定された事業者により tonarino (トナリノ) が整備されました。

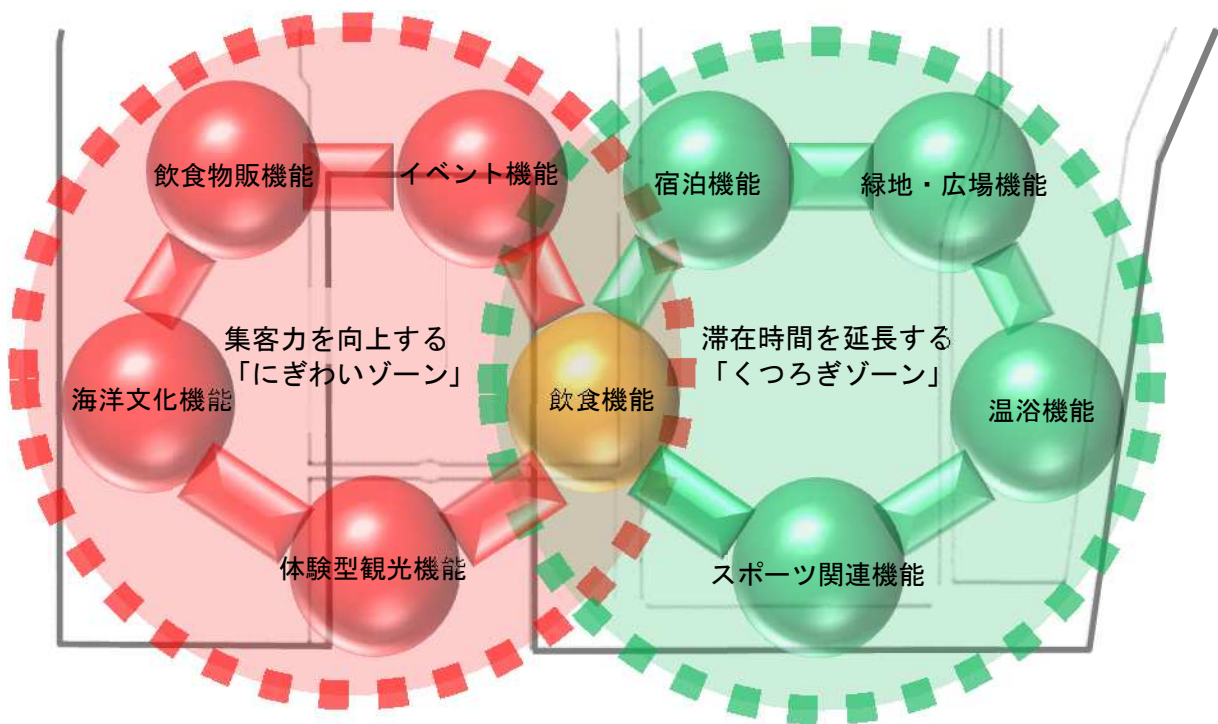
tonarino (トナリノ) は「レストラン・カフェ」と「スポーツ」を中心のコンテンツとした複合商業施設で、2017年4月にオープンしました。公園を単なる憩いの場としてだけでなく、ランニング等をはじめとしたスポーツに活用できるような施設として、ランニングステーションが入居しています。このほか、tonarino にはウッドデッキが整備されており、イベントスペースとしての活用が可能となっております。

※ランニングステーション：近年増加しているランナー向けのサービスを提供する施設で、ロッカールームやシャワー室、スポーツショップなどがセットとなった施設



tonarino (名古屋市名城公園)

■ (参考) 機能配置のイメージ



※機能配置の考え方に沿って具体的なイメージを示したもので、個別機能や立地場所を特定するものではありません。

第3章 再開発の実現に向けて

3-1 再開発の実現に向けた取組

ガーデンふ頭の再開発にあたっては、既存施設の利活用又は移転・撤去が想定されます。リニア中央新幹線の開業を見据え、ガーデンふ頭全体をさらに魅力的な場所にするには、開発力、経営力、資金力に長けた民間事業者を主体とし、効果的・効率的に再開発を進めていくことが必要です。

このため、以下の2つの取り組みを進めていきます。

(1) 民間資金とノウハウを最大限にいかす取組

再開発の検討の早い段階から、実施主体となる意向を有する民間事業者の柔軟かつ優れたアイデアや意見を把握します。これを活用しながら開発を進めることで、民間事業者の魅力ある提案をスムーズに実現することができます。

先進事例：天王寺公園（てんしば）

大阪市は天王寺公園の再開発にあたり、エントランスエリアをトータルプロデュースすることのできる事業者を、公募により選定しました。「民が主役、行政はサポート役」の考え方にに基づき、民間事業者の優れたアイデアを導入したことにより、「てんしば」は2016年のグッドデザイン金賞を受賞しました。



資料) 大阪市

■ サウンディング調査の対話内容

- ・提案事業の内容（コンセプト、魅力向上のイメージ、事業エリア、施設規模・グレード、導入機能など）
- ・事業条件（事業フレーム、事業期間、公園使用料、官民分担の考え方など）
- ・事業収支（概算費用、収支見込み、投資回収方法等）

■ 民間事業者の提案に求める内容

- ・天王寺公園全体についての公園像やデザインの考え方、関連施設・周辺地域との連携、動線計画等
- ・エントランスエリアにおける事業計画概要

(2) 投資意欲の向上に向けた取組

現行の規制を前提にすると、民間事業者のアイデアや意見を十分にいかすことができないことが想定されます。このため、具体的な民間事業者からの提案を踏まえ、必要な規制緩和に取り組みます。

また、更なるイベントの推進などにより、ガーデンふ頭の認知度の向上を図ります。

<ガーデンふ頭におけるイベント>

海の日名古屋みなとまつり



Assemblebridge・NAGOYA



わんこと一緒に楽しめる大型マルシェイベント



車のイベント



なお、民間による開発を促進するために、必要な基盤施設については、民間事業者の意向を把握するなどにより、民間及び公共がそれぞれ行う役割を整理していきます。

3-2 今後の進め方

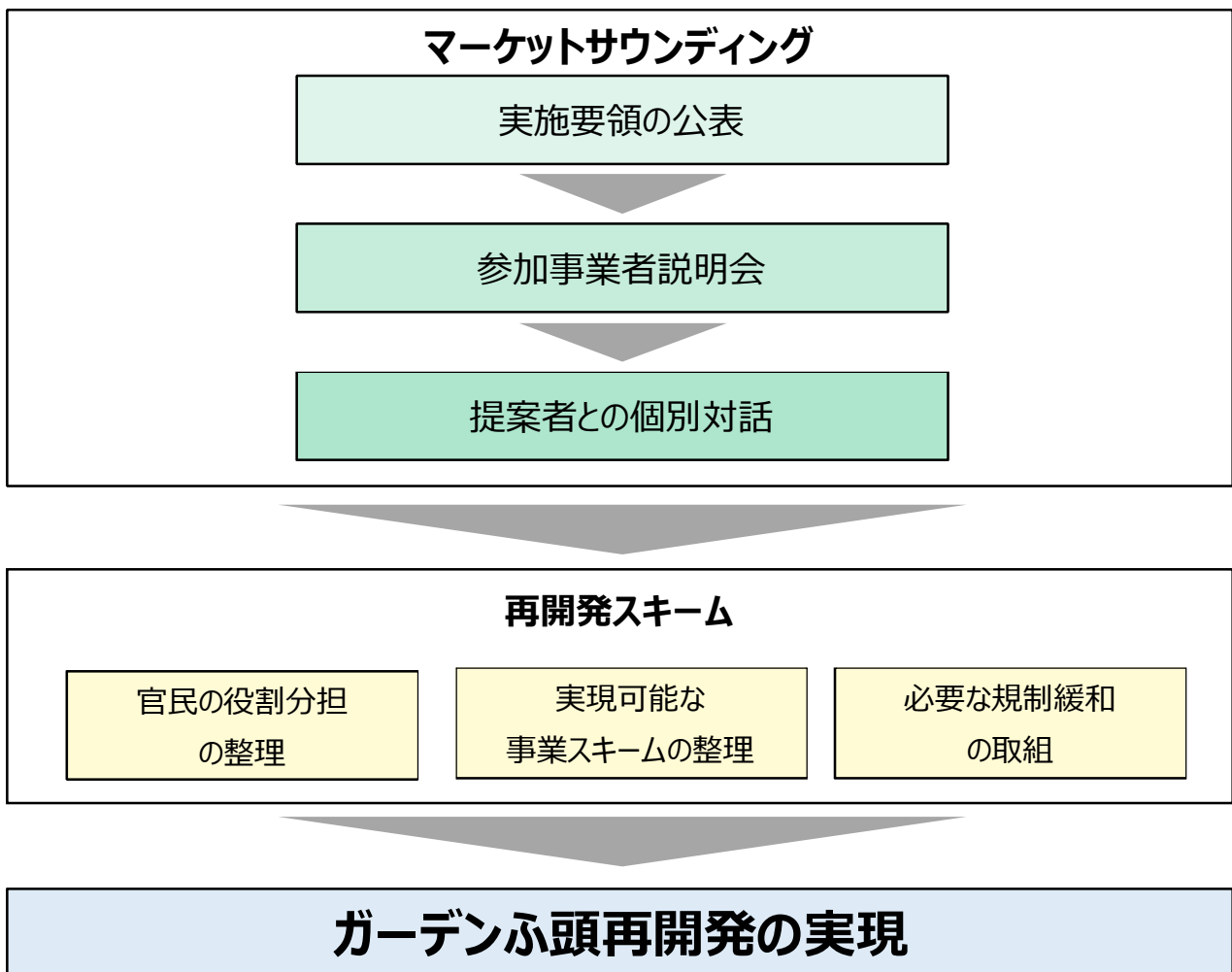
基本計画の策定後は、実施主体となる意向を有する民間事業者から直接アイデアや意見を把握するマーケットサウンディング※を実施します。

マーケットサウンディングでは、景観や防災への配慮を前提として、にぎわい空間やくつろぎ空間を形成することなど、行政が求める内容を提示し、民間事業者からの新たな施設整備や既存施設の利活用又は移転・撤去などに関する提案について、事業者と個別に対話を行います。

必要な事業スキームや官民の役割分担などの再開発スキームについては、マーケットサウンディングの内容を踏まえて整理し、また、先進事例の取り組みを研究しながら再開発の実現を目指します。

※マーケットサウンディングとは、民間事業者から広く意見や提案を求める市場調査で、開発計画の検討の早い段階での民間事業者との対話を通じ、ガーデンふ頭における土地・施設の利活用や運営の方向性、また市場性を確保するためのアイデアを得ることにより、幅広い検討が可能となります。

<基本計画策定後の手順>



先進事例：みなとみらい 21 中央地区 20 街区 MICE 施設整備事業

横浜市では、みなとみらいにおける MICE 施設への需要に対する供給が不足している状況のなか、新たな MICE 施設の事業化を決定、市場性の有無や事業アイデア、採算性確保の方策の把握を目的にサウンディング調査を実施しました。

サウンディング調査の結果として、現存 MICE 施設と連絡デッキで接続すること、臨港パーク内でのレストラン・カフェの出店や興業イベントを実施すること、交通アクセスを補強することなどについて民間事業者からの提案がありました。

サウンディング調査ののち、横浜市民間資金等活用事業審査委員会において提案内容の審査が行われ、事業者が決定されました。



資料) 横浜市 HP

先進事例：大高緑地への民間活力導入に係るマーケットサウンディング

愛知県では、県営都市公園である大高緑地においては、老朽化した施設への対応及び緑地のさらなる魅力向上のため民間活力の導入可否を検討しており、民間のノウハウに基づく幅広いアイデアや市場性の有無等を把握するため、サウンディングを行っています。

■ 民間からの提案対象区域（老朽化施設）

- ・休憩センター、C・Dプール、児童園

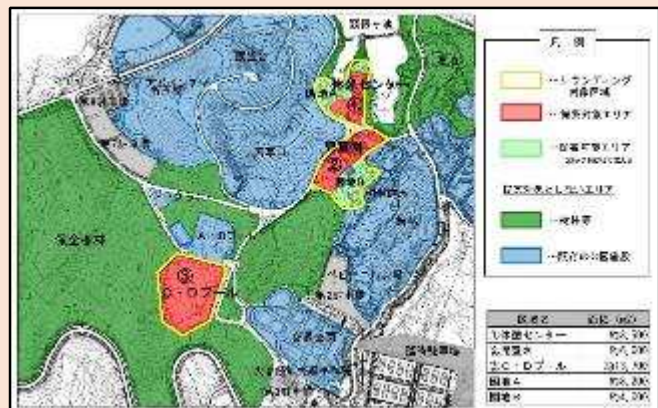
■ サウンディング調査の対話内容

- ・大高緑地の魅力向上に資する公園施設に関するアイデア
- ・実現可能な事業フレーム（事業期間、想定利用者数、収支見込み等）
- ・老朽化施設の活用または撤去について
- ・交通対策について（シャトルバス等）

■ マーケットサウンディングの結果

3 事業者より飲食、物販及び遊戯施設等の提案（内容についてはノウハウ保護のため非公表）

<民間からの提案を募集する区域>



資料) 愛知県 HP

先進事例：シドニー・バランガルー地区再開発事業

オーストラリア・シドニー中心部の北西部に位置するバランガルー地区では、かつての荷役港としての役割から、緑のある湾へと方針を転換する再開発を実施しています。

バランガルー地区は3つのエリアに分かれて再開発が進められており、各地区についてマスタープラン作成の公募が実施され、計画の段階から民間の建築設計事務所などに委託がなされています。

再開発にあたっては、開発委員会が設置され、全体の統括管理を行っています。

■バランガルー開発委員会（Barangaroo Delivery Authority）

ニューサウスウェールズ州法に基づき設立された州政府機関で、高品質な再開発を目的としてバランガルー地区の土地を所有し、全体のデザインや財務などを管理する役割を担っています。

■各開発地区の概要

○バランガルー・リザーブ

2015年に開発が完了した3地区の北側に位置する公園地区で、再開発により特徴的な地形を持つ海岸線とそれに沿った歩道・自転車道が整備され、親水空間には工事によって掘られた10,000個の砂岩を再利用するなど、ユニークでデザイン性の高い空間が作られました。本地区には公園とともに、巨大な（長さ150m、幅50m、高さ15m）多目的文化施設が建設されました。

○セントラル・バランガルー

3地区の中央に位置するセントラル・バランガルーは、公募によるマスタープランに則って公共空間をある程度残したうえで、中心業務地区からのアクセス性が高い居住施設・商業施設の混合地区として開発されます。このマスタープランの中では、“Recognized globally and loved locally”（世界的に知られ、身近に親しまれる）というコンセプトが掲げられております。また、計画にあわせて地下鉄バランガルー駅が新設される予定です。

○バランガルー・サウス

南端のバランガルー・サウスでは、増加する大規模オフィスの需要を満たすべく、3棟の高層ビルが建設されます。マスタープランではこれに加えて、シドニーにおけるオペラハウス以来のランドマークとして、高層の宿泊施設の提案がなされています。また、従来荷役港であったため直線的だった岸壁が再整備されることにより、優れたデザインの親水空間へと生まれ変わります。

先進事例：柏の葉国際キャンパスタウン構想

柏の葉エリアは、千葉大学、東京大学、研究機関、公共施設、公園等が集積しており、先端的都市形成を先導する高いポテンシャルを有していますが、これだけでは、従来型の開発から抜け出すことができないという意識の下、新しい柏の葉キャンパスタウンのライフスタイルを確立していくため、行政と専門家が直接事業者と議論を行いながら事業を進める、公民学連携のまちづくりが進められています。

■デザインガイドラインの作成

千葉県柏市柏の葉地区においては、柏の葉キャンパス駅周辺部役 443ha が土地区画整理事業の対象地区となっています。柏市においては市条例に基づく柏市景観ガイドラインが導入されており、柏の葉に関する景観計画の重点地区も「柏の葉キャンパス駅周辺景観重点地区」として景観基準が、市の景観デザイン委員会で定められました。柏の葉キャンパス駅周辺景観重点地区内の、千葉県所有地において事業コンペがなされ、応募条件として、千葉県の「アーバンデザイン方針」を遵守すること、県のアーバンデザイン委員会の意見を聞くことに加え、市の景観重点地区の基準に基づき、街区ごと単位に、民間サイドが「デザインガイドライン」を作成することとし、市は、民間が作成した具体的で詳細な「デザインガイドライン」を公認し、公表する方法をとりました。まちづくりの目的の一つとして、コミュニティを形成することがあげられますが、このことによって、街区ごとに地権者が話し合い、都市の最小単位である「街区」のコミュニティを形成することが期待できるほか、民間による高度なデザインガイドラインを採用することができるメリットを期待できるほか、デザインガイドラインが情報公開されることで、市民が都市開発の質を理解し、公共への信頼が増すこと、街区別のガイドラインが公認されて記録として残るといった意義も有しています。

■柏の葉のマネジメント

事業コンペ後は、実施設計の際の度重なる変更に伴うデザインを審査するために、県のアーバンデザイン委員会の審議を実施設計が終わるまで 8 年間継続しました。さらに周囲の市街地に広げて柏の葉のアーバンデザインやまちづくりを継続的にマネジメントしていくため公学民共同の UDCK（柏の葉アーバンデザインセンター）が設立され、まず、最初に「柏の葉国際キャンパスタウン構想」に着手し、千葉県、柏市、千葉大学、東京大学が協働で新たな地域ビジョンを示しました（2008 年策定）。2014 年に改定を行っていますが、引き続き「環境に配慮したまちづくり」を実践しています。

柏の葉のアーバンデザインのマネジメントを行う上で、UDCK は市から景観法の景観整備機構に認定され、市の景観デザイン委員会とともにデザイン協議を支援できるだけでなく、地域コミュニティ活動を支援するという形で地域に関与しています。

■エリアマネジメントの実施

安全で快適な環境と地域の価値を維持し向上させる地域経営組織を公民学の連携で設立するエリアマネジメントの実施を目標とし、（１）環境・健康行動を普及し、質を高めるマネジメント（２）安全や魅力を生み価値を高めるマネジメント（３）自立したマネジメントを行うことを方針として掲げています。

エリアマネジメント組織の役割として、植栽等の外交の一括管理などメンテナンスマネジメントのほか、柏の葉キャンパスブランドの開発と販売、イベント企画・運営などのプロモーションマネジメントや先述したデザインガイドラインの作成と管理といったデザインマネジメントの役割を担うことが期待されています。このように、地域一体となって地区の価値を高め、より魅力的な都市形成を図る努力を行っています。

參考資料

1. ガーデンふ頭再開発基本計画検討委員会

① 委員

氏名	所属
犬塚 大志	株式会社ゲイン 取締役社長
内田 俊宏	中京大学 客員教授
佐藤 久美	金城学院大学 教授
田中 豊	名古屋商工会議所 理事・企画振興部長
◎秀島 栄三	名古屋工業大学大学院 教授
平野 裕加里	フリーアナウンサー
宮脇 勝	名古屋大学大学院 准教授

◎委員長

(五十音順、敬称略、平成 29 年 8 月時点)

② 委員会の開催状況

日付	会議	検討内容
H28.12.18	第 1 回検討委員会	基本計画策定の背景 取り巻く環境 将来像と基本計画
H29.2.28	第 2 回検討委員会	目指す将来像 基本方針 機能配置の考え方
H29.5.17	第 3 回検討委員会	計画内容のイメージ 再開発の実現に向けて 基本計画の中間取りまとめ
H29.8.2	第 4 回検討委員会	基本計画のとりまとめ

2. 意見募集の結果

【期 間】

平成29年6月22日から7月21日

【資料の閲覧場所】

名古屋港管理組合本庁舎、愛知県庁、名古屋市役所、名古屋市港区役所、
名古屋都市センター、西築地コミュニティセンター、港まちポットラックビルディング

【意見の提出方法】

ホームページ投稿フォーム、電子メール、ファクシミリ、郵送又は持参



【意見募集結果】

提出者数 41 者

意見数 125 件




意見の分類		件数
第1章 取り巻く環境及び現況分析に関するご意見	現況分析	17
第2章 将来像及び基本方針に関するご意見	将来像	6
	基本方針及び施設配置計画	63
第3章 再開発の実現に向けてに関するご意見	再開発の実現に向けた取組	3
	今後の進め方	36
合 計		125

3. ガーデンふ頭開発年表

年 月		出来事・行事
明治 37 年	1 月	2 号地埋立工事着手
明治 38 年	7 月	2 号地埋立完成
	11 月	2 号地ふ頭完成
昭和 09 年	9 月	西ふ頭埋立完成
昭和 11 年	9 月	中央ふ頭埋立完成
	10 月	東ふ頭埋立完成
昭和 40 年	8 月	2 号地防潮壁完成
	11 月	1・2 号地間運河埋立完成
昭和 46 年	3 月	地下鉄名古屋港～金山間営業運転開始
昭和 48 年	12 月	港湾計画一部変更 2 号地地区公共ふ頭計画(再開発計画)位置付け
昭和 51 年	9 月	親しまれる港づくり懇談会発足 (名古屋港管理組合内)
昭和 54 年	4 月	2 号地再開発に伴う中央ふ頭・西ふ頭間埋立 地を特定駐車場として使用開始(3,500 m ² 、 218 台収容)
昭和 55 年	7 月	建設中の 2 号地臨海公園を公募によりガーデン ふ頭と命名
昭和 56 年	1 月	ガーデンふ頭埋立完成
	4 月	ガーデンふ頭 2 号岸壁、3,000 t 級を 1 万 t 級に変更して使用再開 3 号岸壁使用開始
昭和 58 年	4 月	ガーデンふ頭臨港緑園一部オープン 
		名古屋港ポートビル開館 
昭和 59 年	7 月	

年 月		出来事・行事
昭和 60 年	8 月	南極観測船ふじ、オープン 
		ポートハウスオープン、ふじの広場完成 
昭和 61 年	4 月	ポートブリッジ、ガーデンふ頭・西ふ頭間に完成 (全長 190m)
		ポートブリッジ開通 
平成 01 年	7 月	世界デザイン博覧会開催 (～11 月 26 日) 
平成 02 年	3 月	名古屋港貿易展示室オープン (名古屋港ポートビル 4 階)
平成 03 年	3 月	名古屋港水族館、カメ類繁殖研究施設完成
	10 月	築地ポータウン計画発表
平成 03 年	12 月	海上保安庁大型巡視船みずほ入港 (名古屋海上保安部に配属)
	平成 04 年	3 月

年月		出来事・行事
平成 4 年	10 月	名古屋港水族館開館、JETTY も同時オープン 
		
平成 06 年	10 月	国際観光振興会、ガーデン緑園総合案内所を「i 案内所」に指定（i 案内所とは、世界各国に立地された公的観光案内施設で、「i」はインフォメーションの頭文字。各案内所が連携し、訪日外国人に対して全国的な観光情報の提供を行う。国内で 82 番目、愛知県内で 5 番目の指定）
平成 07 年	1 月	食糧庁サイロの撤去方針を変更し展望台などに再利用する方針発表 
平成 08 年	7 月	風の灯台時計塔完成
平成 13 年	11 月	水族館第 2 期オープン（北館）、合わせて水族館南側緑地、海岸プロムナード供用 

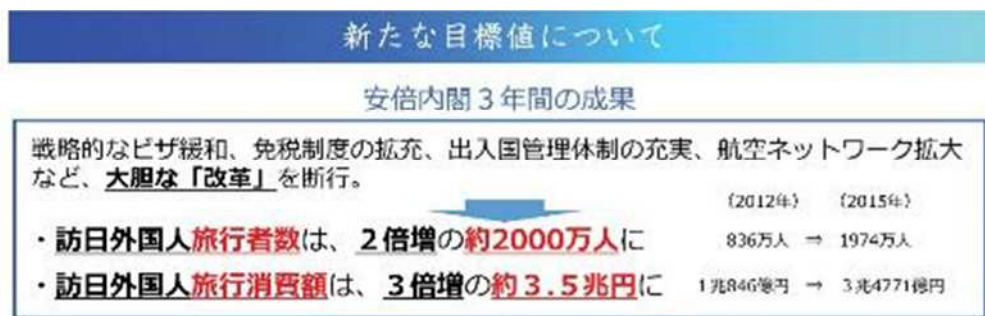
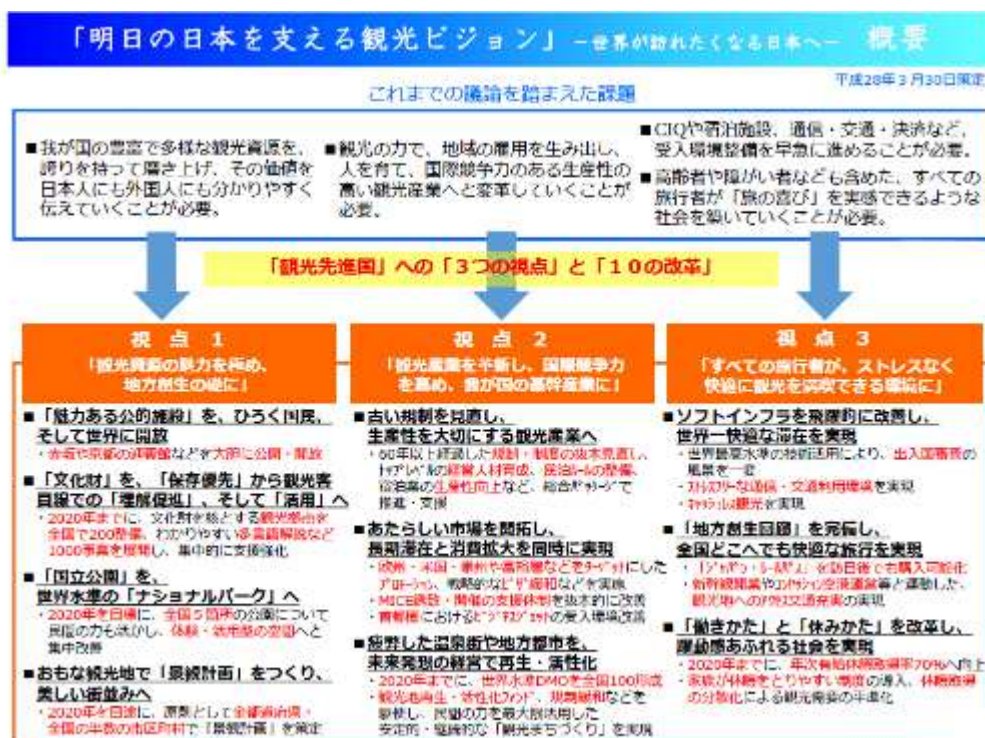
年月		出来事・行事
平成 16 年	4 月	海洋博物館リニューアルオープン
平成 17 年	4 月	名古屋港イタリア村オープン 
平成 20 年	5 月	名古屋港イタリア村破産
平成 22 年	7 月	イタリア村跡地の一部を芝生広場として一般開放
平成 26 年	4 月	名古屋港ポートビル展望室リニューアルオープン
	12 月	名古屋港水族館「サンゴ礁大水槽」リニューアル
平成 27 年	3 月	海洋博物館リニューアルオープン 
	9 月	20 号倉庫撤去
平成 28 年		4 号倉庫撤去
		HARBOR GARDEN オープン（暫定利用）
	7 月	南極観測船ふじりリニューアルオープン 
	12 月	ガーデンふ頭再開発基本計画検討委員会設置
平成 29 年	9 月	ガーデンふ頭再開発基本計画策定

4. 関連計画

① 明日の日本を支える観光ビジョン（平成28年：国土交通省観光庁）

【概要】 政府が『観光先進国』への新たな国づくりに向けて、『明日の日本を支える観光ビジョン構想会議』（議長：内閣総理大臣）において策定した新たな観光ビジョン

【目標年次】 2030年



新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数	2020年： 4,000万人 (2015年の約2倍)	2030年： 6,000万人 (2015年の約3倍)
訪日外国人旅行消費額	2020年： 8兆円 (2015年の2倍超)	2030年： 15兆円 (2015年の4倍超)
地方部での外国人延べ宿泊者数	2020年： 7,000万人泊 (2015年の1倍超)	2030年： 1億3,000万人泊 (2015年の5倍超)
外国人リピーター数	2020年： 2,400万人 (2015年の約2倍)	2030年： 3,600万人 (2015年の約3倍)
日本人国内旅行消費額	2020年： 21兆円 (最近5年間の平均から約5%増)	2030年： 22兆円 (最近5年間の平均から約10%増)

② 港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針

(平成29年：国土交通省港湾局)

【概要】 国の港湾行政の指針として、並びに港湾管理者が個別の港湾計画を定める際の指針として、港湾法に基づき国土交通大臣が定めるもの。

【方針】 多様な要請に対応して、我が国の港湾が社会から求められる機能を的確に発揮するため、我が国産業の国際競争力の強化と国民生活の質の向上を支える、効率的で安全性・信頼性が高く環境負荷の小さい輸送体系を構築していく。

I 今後の港湾の進むべき方向

- 1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築
- 2 国民の安全・安心の確保への貢献
- 3 良好な港湾環境の形成
- 4 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理

① 地域の活力を支える物流、産業空間の形成

② **美しく・文化性に富んだ親しまれる港湾空間の形成**

港湾の持つ歴史的・文化的資源、美しい港湾景観といった地域の個性としての港湾の資産を最大限に活かすとともに、交流機能の向上や市街地との調和を図りつつ、市民、NPO等の主体的な参画も得て、美しく、利用しやすく、活力があり、働きやすく、親しまれる港湾空間を形成する。

このため、海の自然やみなとの魅力に触れ合い、快適に利用できる親水緑地・広場、海浜等の整備や海水浴、ビーチスポーツ等の活動の場の提供等によりみなとへのパブリックアクセスを向上させる。

また、地域の自然・歴史・文化等と人々の生活、経済活動等との調和に配慮しつつ、人々の心がなごむ良好な港湾景観を総合的かつ計画的に形成する。その際、人と貨物の動線の分離に十分配慮する。

さらに、みなとと市街地との交通の利便性の向上のため、道路網等と効果的に結ばれた臨港交通施設や旅客施設を整備する。

これらの施設整備等に当たっては、分かりやすい案内標識の設置も含め、ユニバーサルデザインの考え方も取り入れて、誰もが安心して利用できるように努める。

③ 観光や海洋性レクリエーションを核とした交流空間の形成

観光による地域の活性化や人々の交流を支えるフェリー、旅客船、クルーズ船等の多様な要請に対応した、快適で利便性の高い交流空間を形成する。このため、地域の特性に配慮した旅客ターミナル施設や交流施設を整備する。また、まちづくりと一体となって、水際線を有する魅力ある空間を形成する。さらに、運河等を活用して水上ネットワークを活性化するとともに、地域の観光資源等を活用した水辺の賑わい空間を創出する。

さらに、プレジャーボート等による海洋性レクリエーション活動を支え、地域の交流拠点ともなる小型船舶の係留・保管施設や海洋教育のための施設の整備を進めるとともに、マリーナ等を拠点とする安全なクルージングネットワークを形成するための情報提供等について、関係者と連携して取り組む。

加えて、市町村やNPO等の市民団体による地域の特色を活かしたみなとまちづくりを支援するとともに、海水浴、ビーチスポーツ等の多様な活動を通じ海浜の有効活用を図る。

- ④ 健全な都市活動への貢献
- ⑤ 港湾空間の再編
- ⑥ 港湾空間の適正な管理
- ⑦ 将来の情勢変化への対応

5 クルーズ船の受入れの促進

クルーズ需要の増加に対応し、観光立国の実現や地方創生に寄与するため、各港湾の寄港需要に応じたクルーズ船の受入環境を整備する。特に、クルーズ船の寄港回数が多い港湾では、必要に応じてクルーズ船を専用的に受け入れる岸壁や多くのクルーズ旅客の乗降に対応できる旅客施設、十分な面積の駐車場等を整備する。

さらに、ポートセールス活動、港湾や港湾周辺の観光情報の一元的な発信などの取組により、ハード・ソフト一体となった施策を展開する。

また、クルーズ船の受入れに当たっては、地域の観光資源や特色ある産業等を活用し、関係者が連携して寄港地としての魅力の向上に向けて取り組むことにより、地方創生に貢献する。

6 新たな海洋立国の実現に向けた海洋政策の推進

7 ストック型社会に対応した効率的・効果的な事業の実施

③ あいち観光戦略（平成 28 年：愛知県）

【概 要】 観光を愛知県の新たな戦略産業と位置付けた「あいち観光元年」宣言を受けて、県が取り組むべき具体的なプロジェクトを盛り込んだアクション・プログラム

【目標年次】 2020 年

1. 策定の趣旨等

本県では、平成 22(2010)年度から 27(2015)年度までを計画期間とする「愛知県観光振興基本計画」を策定し、各観光地に取り組みの方向や社会・経済情勢の変化を踏まえた「あいち観光戦略」を策定します。この報告は、観光を本県の新たな戦略産業と位置付けた具体的なプロジェクトを盛り込んだアクション・プログラムとなっています。

3. 目指す姿（何を目指すのか）

発見、感動、伝えたい観光県－あいち

本県の楽しいコト、驚くコト、おいしいコトを発見し、感動することで、
全国・世界の人々に伝えたい観光県を目指します。

5. 戦略とプロジェクト（何をもちて目指すのか）

戦略 I	戦略 II	戦略 III
<p>訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢の強化 “Heart” of JAPAN -Technology & Tradition-</p> <p>増大を続ける訪日外客を確実に取り入れるために、PRと受入態勢を強化し、納客率の向上を図る。</p> <p>【重点プロジェクト】 情報発信の充実・強化 海外観光説明会・商談会開催 海外プロモーション実施</p> <p>【その他のプロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アジアを重視した誘客促進と受入環境の整備促進 ○ 駐日外国公館・外国政府観光局・海外メディアとの連携 ○ 伊勢志摩サミットを活用した魅力発信 ○ 訪日教育旅行の誘致・受入 ○ インターネット環境の利便性向上 ○ 観光案内所・案内看板・観光施設の多言語対応 ○ 免税店・ナイト観光の充実 	<p>観光資源の充実とブランド化の推進 ～モノズブ愛知で待っ界～</p> <p>観光資源の発掘・磨き上げを行うとともに、本県らしい「モノズブ愛知」を戦略的に PR し、本県の観光のブランド化を図る。</p> <p>【重点プロジェクト】 武将観光・産業観光の推進 戦国武將やゆかりの史跡、忍者等を生かした武将観光の推進 武将観光イベントの開催 あいち航空ミュージアム(仮称)の整備</p> <p>伝統・文化に触れる観光の推進 山車まつり・文化の PR・プロモーション</p> <p>グルメ・食文化のブランド化 「なごやめし」の普及促進</p> <p>荷地型観光の推進 荷地型観光の商品化支援</p> <p>情報発信の充実・強化 官公庁等における情報発信・プロモーション</p> <p>【その他のプロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 機内ドラマ等のコアコンテンツ開発・資源の活用 ○ ホップ・ステップ・観光の推進 ○ 山村・農家の観光振興 ○ 街道観光の推進 ○ 酒蔵を生かしたツーリズムの推進 ○ 観光施設の整備等への支援 ○ 子育て世代を活用した家族観光の推進 ○ 自然公園の活用 ○ 臥雲市市公園の活用 ○ 蟹九使の整備 	<p>観光交流拠点県としての機能強化</p> <p>良好なアクセス環境を生かして観光交流拠点としての機能を強化するとともに、観光客の安心・安全の確保を図る。</p> <p>【重点プロジェクト】 広域観光の推進 昇龍道プロジェクトの推進 産業観光同遊パスの運行</p> <p>【その他のプロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 航空路線・クルーズ船の誘致促進 ○ 道の駅を活用した観光振興 ○ 交通拠点発の二次交通及び観光周遊コースの充実 ○ 観光力につながる道路整備 ○ 自然災害発生時等における旅行者の安心・安全の確保

6. 数値目標

来県者数	全体(平成 25 年)	3,817 万人 ▶ 5,000 万人	観光消費額	全体(平成 25 年)	7,270 億円 ▶ 1 兆円	滞在日数	全体(平成 25 年)	1.29 泊 ▶ 1.7 泊
	外国人(平成 25 年)	123 万人 ▶ 400 万人		外国人(平成 25 年)	798 億円 ▶ 2,500 億円		外国人(平成 25 年)	1.44 泊 ▶ 2.0 泊

戦略の概要

2. 計画期間

組んでまいりました。このたび、同分野の担当課員に伴い、最新の付けた「あいら観光元年」宣言を受けて、真が取り組むべき具

平成 28(2016)年度～平成 32(2020)年度 (5年間)

4. 基本的な視点 (どのように目指すのか)

戦略的な情報発信

本県の特徴を生かしたブランド化やターゲットの明確化、ニーズの把握等を行う、国内外に向けて戦略的かつ効果的にPRし、観光県「あいら」の魅力を伝える。

幅広い県民参加

個人、学校、企業、団体など、様々なフィールドで、県民自身が本県の歴史・文化や自然、食などの魅力を再発見し、誇りを持って、観光県「あいら」の魅力を伝えていきます。

重点・牽引型

断片的・裏上げ型ではなく、本県らしい魅力あるテーマに沿って重点事業を定め、磨き上げを行うことで、伝えたい観光県「あいら」を実現します。

戦略 IV

MICE・スポーツ大会を通じた誘客推進

MICE・スポーツ大会の誘致・開催等を推進するとともに、受入環境を整備することで、本県の交流人口の増大を図る。

【重点プロジェクト】

MICEの誘致

MICE誘致のためのPR・プロモーション

受入環境の整備

大規模展示場の整備に向けた取組

スポーツ大会の招致・育成

ラグビーワールドカップ2019の開催支援

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の競技招致及び合宿誘致

FIFAフットサルワールドカップ2020の招致と開催支援

アジア競技大会などの国際的スポーツ大会の招致検討

【その他のプロジェクト】

- 愛知芸術文化センターを活用した誘客
- 県内で開催される大規模催事・展示会等のPR

戦略 V

戦略的な観光ひとづくり

県民や企業、学校等を巻き込んで観光を盛り上げ、観光人材の裾野を広げるとともに、キーパーソンを育成する。

【重点プロジェクト】

観光人材の育成

学校との連携・協働

地域自らによる観光マネジメント力の強化

日本版DMO[※]の推進

【その他のプロジェクト】

- 観光ボランティアガイド等を通じた県民によるおもてなしの向上
- 県民による魅力再発見の推進
- 大学等の専門知識の活用

※Destination Management / Marketing Organization の略。地域の「観光力」を向上させるために、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地づくりの推進策。

戦略 VI

民間活力の活用

民間主導のプロジェクトと連携したり、大学・企業などと連携して、資源の磨き上げやPRなどを行う。

【重点プロジェクト】

観光関連事業者との連携強化

【その他のプロジェクト】

- 企業、NPO、市民活動、大学、留学生などとの連携・協働
- 有料道路コンセッションを通じた観光振興
- 県営都市公園における民間活力を活用した新たな魅力の創出

国際会議開催件数	(平成28年)	179件 ▶	200件
	(平成29年)		

満足度 (観光客満足度)	全体(平成28年)	19.6% ▶	30.0%
	外国人(平成27年)	39.6% ▶	50.0%

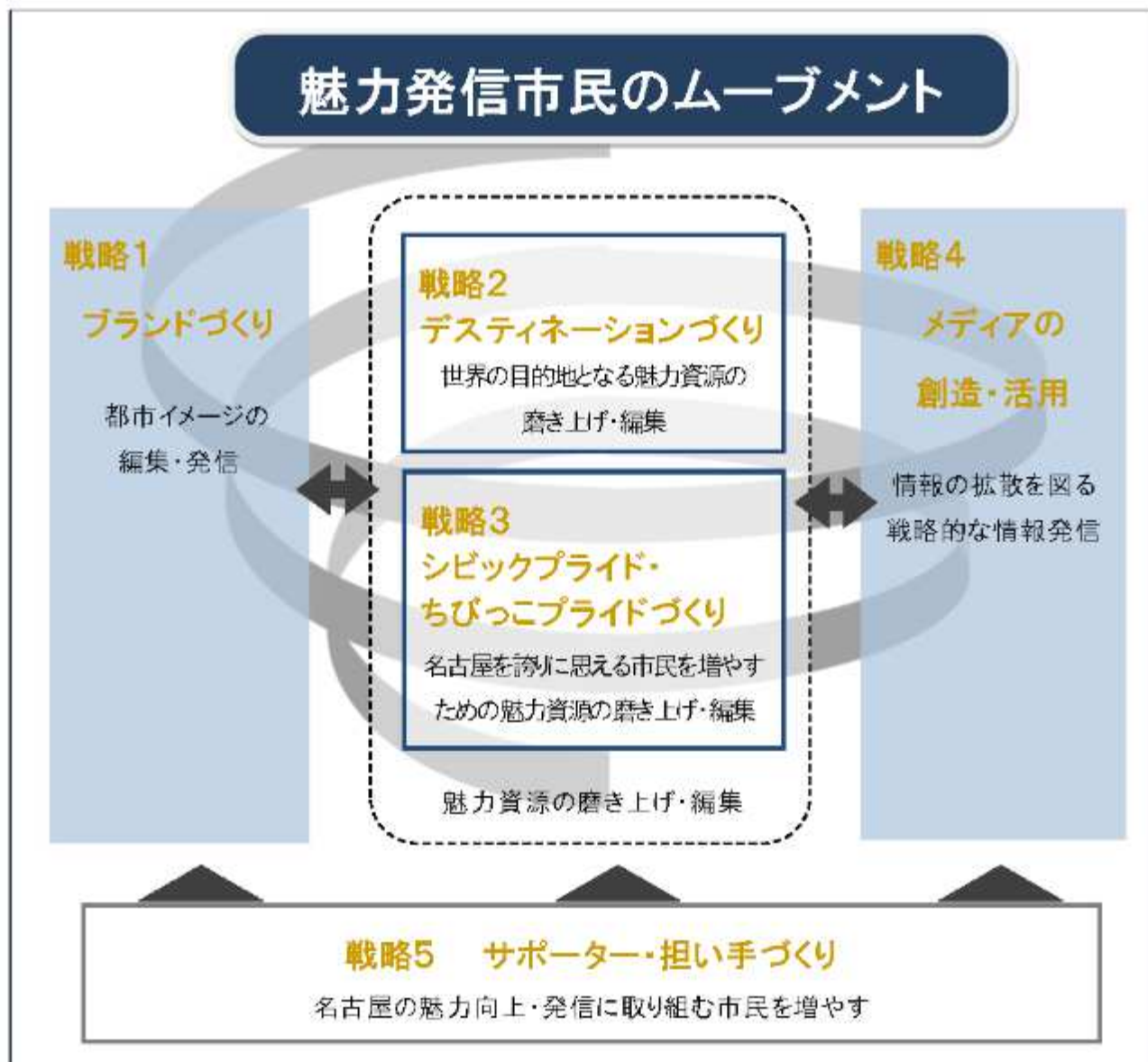
観光地としての魅力度	全国(平成27年4月)	69.7% ▶	80.0%
	岐阜(平成27年4月)	66.3% ▶	80.0%

④ 名古屋魅力向上・発信戦略（平成 29 年：名古屋市）

【概要】 国内のみならず世界中から名古屋を訪れる人を増やし、名古屋圏域を大いに発展させるため、名古屋の魅力を最大限磨き上げ、その魅力を市民自ら、日本全国に、世界に名古屋の魅力を届けられるよう、5つの戦略を取りまとめたもの

【目標年次】 2020 年

■ 5つの戦略



■ 計画における名古屋港地区の位置付け

～名古屋城を核とした2つの魅力軸～
 (歴史・文化魅力軸、まちづくり・ものづくり魅力軸)



⑤ 名古屋港長期構想（平成 19 年：名古屋港管理組合）

【概要】

世界ステージでのさらなる飛躍に向け、実勢と課題を考察し、新たな将来目標とその展開方向を示す、港勢拡大・課題克服施策が複合した総合飛躍育成型の長期構想。

【目標年次】

2027 年頃

【将来目標】

世界にきらめく港
人びとから愛される港

【基本姿勢】

いつも挑戦！

【分野別将来イメージ】



★グローバルロジスティクスの港

世界の要港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。グローバルロジスティクスに力を入れることで、世界の要港となる。

基本目標 国際物流・国内物流の活性化
取組内容 スーパーグローバルアジアの推進、国際物流の振興、アジア・オセアニア・中東・アフリカへの物流ネットワークの構築、物流の効率化、物流の持続可能性の向上、物流のデジタル化、物流のグリーン化、物流のスマート化、物流のセキュリティの向上、物流のリスク管理の強化、物流の災害対策の強化、物流のセキュリティの向上、物流のリスク管理の強化、物流の災害対策の強化

基本目標 ロジスティクスハブ機能の強化
取組内容 ロジスティクスハブ機能の強化、物流の効率化、物流の持続可能性の向上、物流のデジタル化、物流のグリーン化、物流のスマート化、物流のセキュリティの向上、物流のリスク管理の強化、物流の災害対策の強化

★ものづくりの港

ものづくりの港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。ものづくりの港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。

基本目標 製造業の活性化・発展促進
取組内容 製造業の活性化・発展促進、ものづくりの港としての機能強化、ものづくりの港としての機能強化、ものづくりの港としての機能強化、ものづくりの港としての機能強化

★夢のふくらむ港

夢のふくらむ港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。夢のふくらむ港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。

基本目標 夢のふくらむ港としての機能強化
取組内容 夢のふくらむ港としての機能強化、夢のふくらむ港としての機能強化、夢のふくらむ港としての機能強化、夢のふくらむ港としての機能強化

★環境にやさしい港

環境にやさしい港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。環境にやさしい港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。

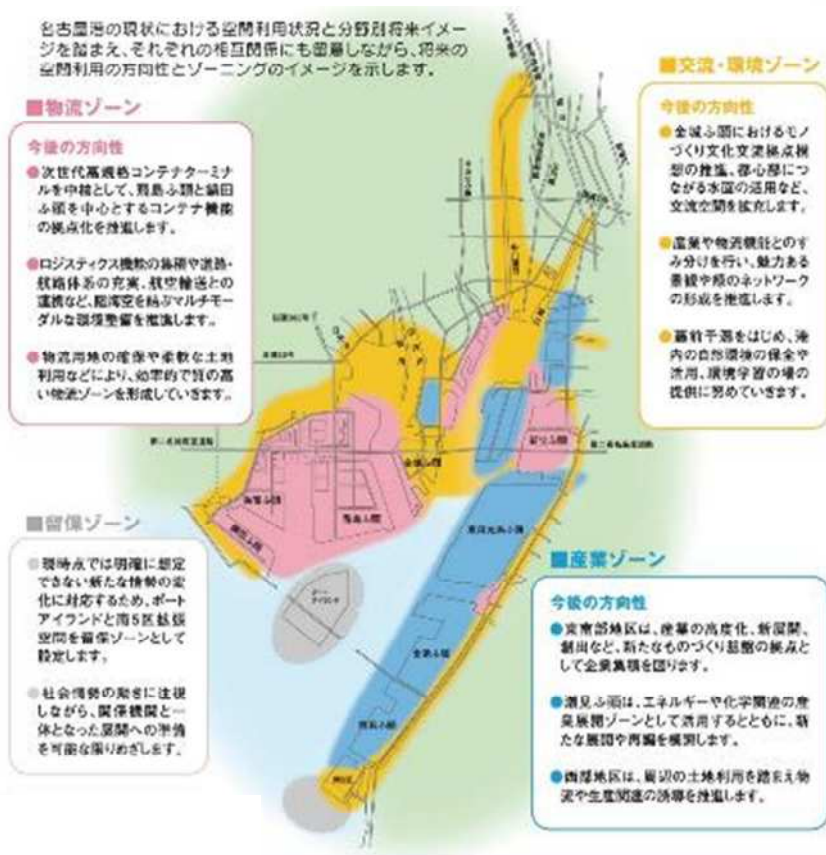
基本目標 環境にやさしい港としての機能強化
取組内容 環境にやさしい港としての機能強化、環境にやさしい港としての機能強化、環境にやさしい港としての機能強化、環境にやさしい港としての機能強化

★安全な港

安全な港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。安全な港として知られる名古屋や人びとに愛されるきらめく港。

基本目標 安全な港としての機能強化
取組内容 安全な港としての機能強化、安全な港としての機能強化、安全な港としての機能強化、安全な港としての機能強化

【空間利用のゾーニングのイメージ】



⑥ 名古屋港港湾計画（平成 27 年改訂：名古屋港管理組合）

【概要】

港湾計画は、港湾法に基づき、港湾の開発、利用及び保全等の方針及び目標年次における港湾の能力とそれに対応する港湾施設の規模と配置、港湾環境の整備と保全等、その他基本的な事項を定めた港湾整備のマスタープラン。

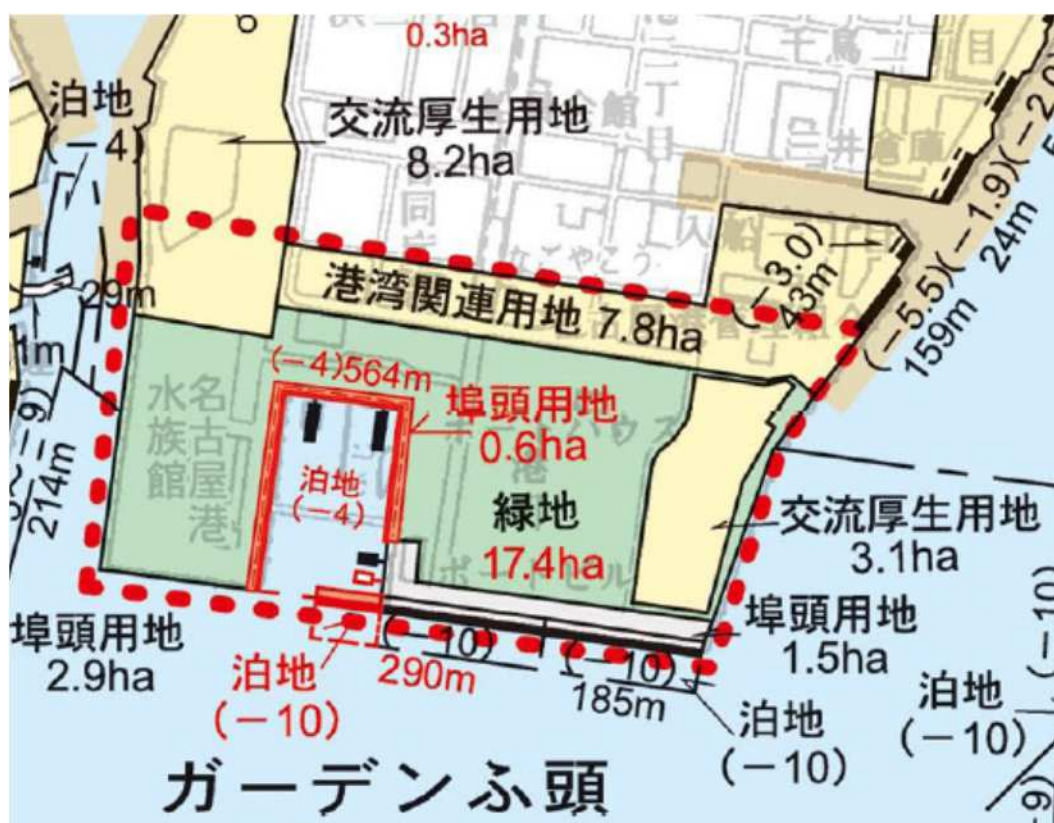
【目標年次】

平成 30 年代後半

【方針】

- コンテナ・完成自動車・バルク取扱機能の強化と安全で円滑な航路・道路体系の構築
- 安全・安心な港湾の構築
- 魅力ある交流空間と良好な港湾環境の形成

【港湾計画図（ガーデンふ頭）】



⑦ 築地ポートタウン計画（平成 27 年：名古屋市・名古屋港管理組合）

【概要】

地区の将来像を明確にし、住民・企業・行政が共通の目標をもち、連携しながら港まちづくりを進めていくための指針とするもの。

【目標年次】

平成 39 年を長期的な目標とし、概ね 5 年ごとに見直し

まちづくりのテーマ

市民や住民の心のふるさととなるような 「美しい港まちづくり」

将来像と基本方針

地域の将来像として次の3つを掲げ、その実現に向けた今後のまちづくりの基本方針を次のように設定します。

将来像 1 市民に親しまれる港 ～名古屋の名所となる港まち～

港の魅力が満喫できる空間の創出

周辺に港を感じることができるプロムナードや広場等を整備するとともに、これらの空間や海を活用したイベント等の充実により、他の地域にない魅力あふれる空間を創出します。

一日楽しく滞在できるまちの魅力づくり

大きな集客力を有する水族館の他に、新たな文化・アミューズメント施設や飲食・商業施設の立地を促進するとともに、築地口周辺における様々なイベントの開催、地域資源の発掘や有効活用等と合わせ、地区内を一日楽しく滞在しながら回遊できる魅力をつくりします。

港ならではの景観形成

港に関わる歴史の保存、継承を図るとともに、名古屋の海の玄関口にふさわしい、港まちらしい景観を形成します。

将来像 2 世界につながる交流拠点 ～多様な人と情報が交流する港まち～

国際交流機能の充実

海外の多様な文化等にふれる場や様々な国の人々との交流ができる場を提供することにより、国際交流機能の充実を図ります。

水上交通の拠点機能の充実

名古屋港、堀川、中川運河を利用した水上交通により、郡心部との連携を図るとともに、世界につながる旅客船ターミナル等の整備により、水上交通の拠点機能としての充実を図ります。



将来像 3 個性ある港まちづくり ～安全で特色のある港まち～

災害から命を守る防災体制の構築

地震・津波、高潮等の災害から住民・就業者、来訪者の命を守るため、防護機能の維持強化、地域の連携・協力による避難場所の確保・確実な避難誘導など防災体制の構築を図ります。

地域の魅力を知り・伝える取組みの充実

地域資源の発掘や地域の魅力を学び、体験する機会の充実を図り、より多くの人に伝わる効果的な情報発信を推進します。

暮らしに便利な特色のある商業空間づくり

地域住民の暮らしの利便性を支える商業サービス機能の充実と、子どもから高齢者まで幅広い層の住民から親しまれる空間として活性化を図り、域外からも人が集まる商業空間を形成します。

定住を促進する暮らしやすい快適な居住環境の形成

多様化するライフスタイルに合った住宅供給を促進し、緑や花のある潤いのある環境、交通事故や犯罪の無い安全な環境づくりにより、暮らしやすい快適な居住環境を形成します。

新たなチャレンジができる機会の充実

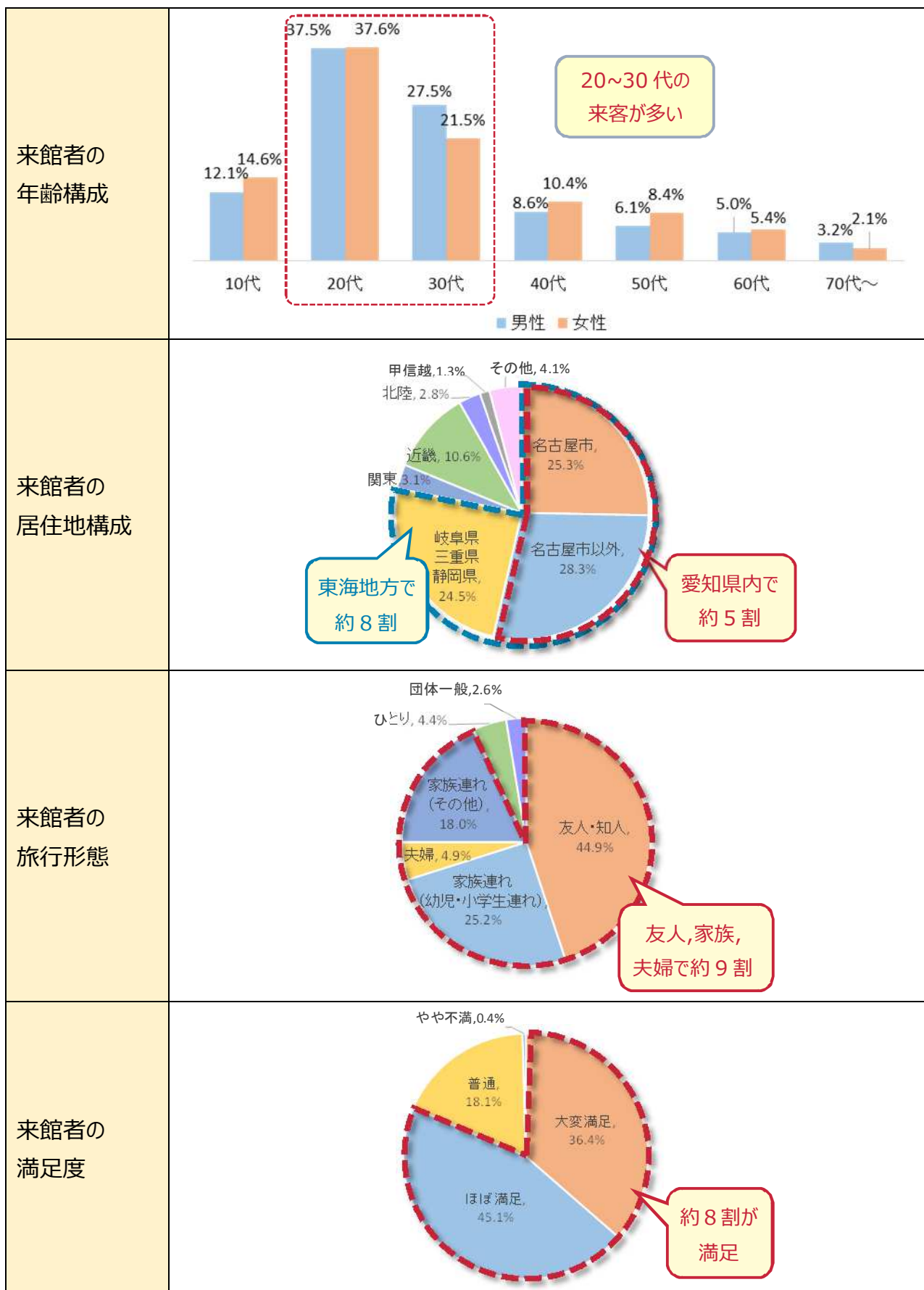
地域の魅力とにぎわいを創出するため、未利用地や空き店舗、道路や公園などの公共空間及び、港まちならではの地域資源等の活用により、新たな事業（イベント、サービス、ビジネスなど）にチャレンジできる機会の充実を図ります。



5. 既存施設の概要




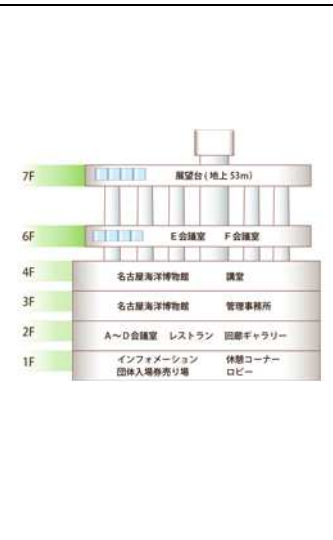




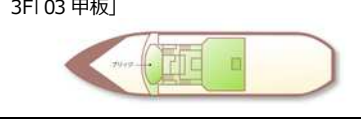
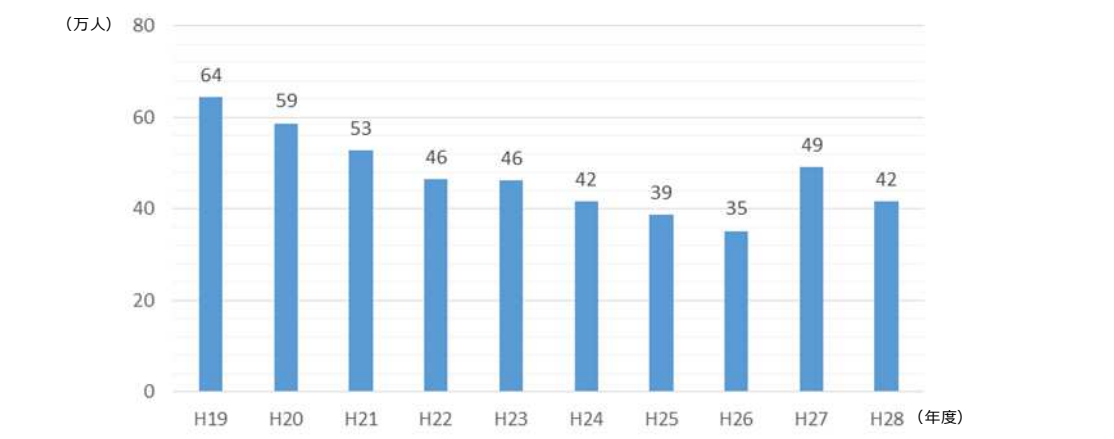
① 名古屋港水族館の概要

名称	名古屋港水族館																							
	南館	北館																						
概要	敷地面積 17,685.59 m ² 延床面積 18,757.62 m ² 展示水槽 2,430 t	敷地面積 23,403.98 m ² 延床面積 21,142.26 m ² 展示水槽 22,952 t																						
	オープン	平成 4 年 10 月	平成 13 年 11 月																					
外観																								
	フロアマップ																							
来館者数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>来館者数 (万人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>212</td></tr> <tr><td>H20</td><td>191</td></tr> <tr><td>H21</td><td>173</td></tr> <tr><td>H22</td><td>177</td></tr> <tr><td>H23</td><td>179</td></tr> <tr><td>H24</td><td>199</td></tr> <tr><td>H25</td><td>204</td></tr> <tr><td>H26</td><td>197</td></tr> <tr><td>H27</td><td>205</td></tr> <tr><td>H28</td><td>197</td></tr> </tbody> </table>		年度	来館者数 (万人)	H19	212	H20	191	H21	173	H22	177	H23	179	H24	199	H25	204	H26	197	H27	205	H28	197
年度	来館者数 (万人)																							
H19	212																							
H20	191																							
H21	173																							
H22	177																							
H23	179																							
H24	199																							
H25	204																							
H26	197																							
H27	205																							
H28	197																							



※平成 27 年度 名古屋市観光客・宿泊客動向調査


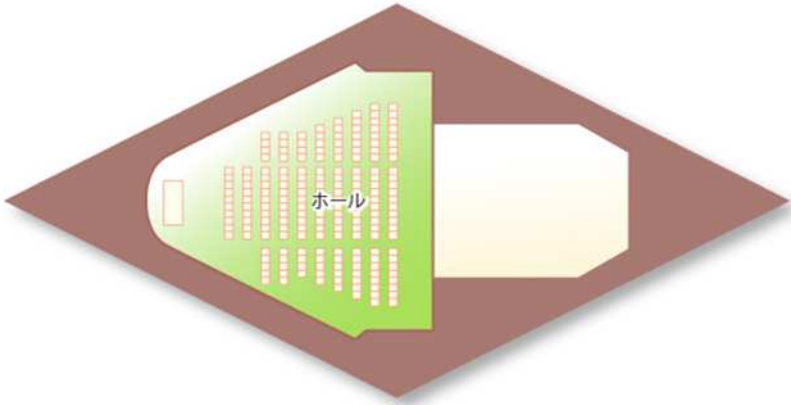
② ポートビル、海洋博物館、南極観測船ふじの概要

名称	ポートビル（博物館・展望室・レストラン・会議室等）		南極観測船ふじ（博物館）																						
	海洋博物館																								
概要	鉄骨造(一部 RC 造) 7 階建 建築面積 7,597.56 m ² 延床面積 18,757.62 m ² 会議室 講堂（200 名）、A 会議室（20 名）、 B 会議室（52 名）、C 会議室（70 名）、 D 会議室（20 名）、E 会議室（24 名）、 F 会議室（12 名）（ ）は収容定員		鉄骨造 B1～3F（公開部分） 占用水域 3,697.50 m ² 延床面積 3,876.22 m ² （うち公開部分 1,410 m ² ）																						
オープン	昭和 59 年 7 月		昭和 60 年 8 月																						
外観																									
フロアマップ	 <p>7F 展望台(地上 53m)</p> <p>6F E 会議室 F 会議室</p> <p>4F 名古屋海洋博物館 講堂</p> <p>3F 名古屋海洋博物館 管理事務所</p> <p>2F A～D 会議室 レストラン 回廊ギャラリー</p> <p>1F インフォメーション 休憩コーナー 団体入場券売り場 ロビー</p>	 <p>3F 船舶のフリップ 開閉装置 おたのしみブリッジ 機能シミュレータ みなとシアター コンテナ輸出入貨物の流れとしくみ 船舶にシナリオキャラクター エントランス 海の歴史と 貨物の流れ 日本への名古屋港 ライブシアター名古屋港 みなとの役割 海と世界をむすぶ道</p> <p>4F 展望デッキ 世界とのつながり 海を通じた文藝</p>	<p>1F「第 1 甲板」</p>  <p>B1F「第 2 甲板」</p>  <p>2F「01 甲板」</p>  <p>3F「03 甲板」</p> 																						
利用者数	 <table border="1"> <caption>利用者数 (万人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数 (万人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>64</td></tr> <tr><td>H20</td><td>59</td></tr> <tr><td>H21</td><td>53</td></tr> <tr><td>H22</td><td>46</td></tr> <tr><td>H23</td><td>46</td></tr> <tr><td>H24</td><td>42</td></tr> <tr><td>H25</td><td>39</td></tr> <tr><td>H26</td><td>35</td></tr> <tr><td>H27</td><td>49</td></tr> <tr><td>H28</td><td>42</td></tr> </tbody> </table>			年度	利用者数 (万人)	H19	64	H20	59	H21	53	H22	46	H23	46	H24	42	H25	39	H26	35	H27	49	H28	42
年度	利用者数 (万人)																								
H19	64																								
H20	59																								
H21	53																								
H22	46																								
H23	46																								
H24	42																								
H25	39																								
H26	35																								
H27	49																								
H28	42																								

③ J E T T Yの概要

<p>名称</p>	<p>JETTY (商業施設)</p>																							
<p>概要</p>	<p>WEST</p> <p>鉄骨造 2階建 建築面積 2,335.46 m² 延床面積 4,370.66 m²</p>	<p>NORTH</p> <p>鉄骨造 2階建 建築面積 378.25 m² 延床面積 520.35 m²</p>																						
<p>オープン</p>	<p>平成4年10月</p>																							
<p>外観</p>																								
<p>フロアマップ</p>	<p>WEST 1F</p>  <p>WEST 2F</p> 																							
<p>利用者数</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数 (万人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>167</td></tr> <tr><td>H20</td><td>163</td></tr> <tr><td>H21</td><td>147</td></tr> <tr><td>H22</td><td>145</td></tr> <tr><td>H23</td><td>136</td></tr> <tr><td>H24</td><td>133</td></tr> <tr><td>H25</td><td>130</td></tr> <tr><td>H26</td><td>115</td></tr> <tr><td>H27</td><td>131</td></tr> <tr><td>H28</td><td>115</td></tr> </tbody> </table>		年度	利用者数 (万人)	H19	167	H20	163	H21	147	H22	145	H23	136	H24	133	H25	130	H26	115	H27	131	H28	115
年度	利用者数 (万人)																							
H19	167																							
H20	163																							
H21	147																							
H22	145																							
H23	136																							
H24	133																							
H25	130																							
H26	115																							
H27	131																							
H28	115																							

④ ポートハウスの概要

名称	ポートハウス (無料休憩所)
概要	鉄骨造(一部 RC 造) 2 階建 建築面積 1,485.79 m ² 延床面積 1,391.44 m ² 収容定員 350 名
オープン	昭和 61 年 4 月
外観	
フロアマップ	

⑤ 公共岸壁の利用状況

■ 1号岸壁利用状況

	クルーズ船	官公庁船	貨物船	その他	計
H23	1	27			28
H24	3	27			30
H25	3	23	1		27
H26		36			36
H27		27			27
H28	2	24			26

■ 2・3号岸壁利用状況

	クルーズ船	官公庁船 (うち練習船)	貨物船	その他	計
H23	26	15 (4)	13	5	59
H24	41	18 (4)	15	5	79
H25	34	17 (4)	8	3	62
H26	31	23 (7)	9	9	72
H27	37	15 (3)	7	6	65
H28	33	20 (4)	9	8	70

■クルーズ船着岸状況

ガーデンふ頭に着岸したクルーズ船データ（平成 28 年）

（単位：総トン・人）

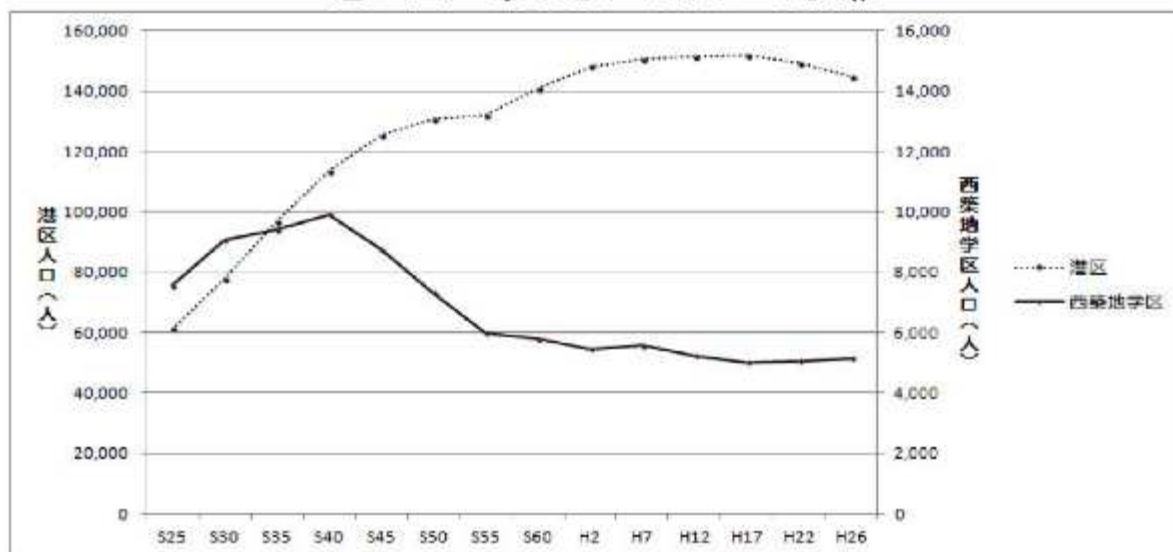
日 付		客 船 名	内外航	国 籍	総トン数	乗客	降客
3月21日	~ 3月21日	にっぽん丸	内	日本	22,472	446	29
3月23日	~ 3月23日	にっぽん丸	内	日本	22,472	35	446
3月25日	~ 3月26日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	494	502
3月30日	~ 3月30日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	14	494
5月25日	~ 5月25日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	460	200
5月26日	~ 5月27日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	125	460
5月27日	~ 5月27日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	602	549
5月27日	~ 5月27日	にっぽん丸	内	日本	22,472	375	0
5月29日	~ 5月29日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	239	560
5月31日	~ 5月31日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	777	582
5月31日	~ 5月31日	にっぽん丸	内	日本	22,472	168	418
6月 2日	~ 6月 5日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	584	235
6月 9日	~ 6月 9日	にっぽん丸	内	日本	22,472	47	142
6月12日	~ 6月13日	ばしふいつく びいなす	外	日本	26,594	14	586
8月10日	~ 8月11日	OCEAN DREAM	外	パナマ	35,265	1	12
8月12日	~ 8月12日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	522	40
8月15日	~ 8月15日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	26	407
8月22日	~ 8月22日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	0	2
9月17日	~ 9月17日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	832	709
9月19日	~ 9月19日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	124	836
9月30日	~ 9月30日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	0	204
10月 1日	~ 10月 1日	にっぽん丸	内	日本	22,472	246	0
10月10日	~ 10月10日	にっぽん丸	内	日本	22,472	0	273
10月16日	~ 10月16日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	359	304
10月25日	~ 10月27日	えとひりか	内	日本	1,124	0	0
11月19日	~ 11月19日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	384	705
11月23日	~ 11月23日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	27	387
12月 6日	~ 12月 6日	OCEAN DREAM	外	パナマ	35,265	7	1
12月12日	~ 12月12日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	526	689
12月13日	~ 12月13日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	678	526
12月13日	~ 12月14日	飛鳥Ⅱ	内	日本	50,142	377	676
12月19日	~ 12月19日	にっぽん丸	内	日本	22,472	384	401
12月19日	~ 12月19日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	422	288
12月20日	~ 12月20日	にっぽん丸	内	日本	22,472	305	384
12月20日	~ 12月20日	ばしふいつく びいなす	内	日本	26,594	164	422

6. 築地地区の概要

① 地区の概要

○西築地学区の人口は、昭和40年の9,919人をピークに急激に減少が進み、昭和55年には6千人を切り、その後も減少を続け、平成22年には5,072人とピーク時の半分程度になっています。近年はほぼ横ばいですが、分譲マンション等の建築もあり、平成17年以降はやや増加しています。

港区と西築地学区の人口の推移



資料：国勢調査（各年10月1日現在）
※平成26年度は推計人口による。

○築地地区には、行政機関として第4管区海上保安部、名古屋海上保安部、名古屋税関、動物検疫所中部空港支所名古屋出張所、名古屋植物防疫所、港湾運送事業者の事務所、倉庫などが立地しています。



② 港まちづくり協議会

<p>名 称</p>	<p>港まちづくり協議会</p>				
<p>目 的</p>	<p>西築地学区を中心とした港周辺地区の環境整備に関するまちづくり事業を住民と行政との協働により企画及び実施すること</p>				
<p>事業</p>	<div style="text-align: center;"> <p>◎港まちづくり協議会は、環境整備協力費を活用したまちづくり事業を推進しています。</p> </div> <p>(平成29年度事業計画)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>○：心地よく安全な港まちで暮らす</p> <p>○－(1)防災・減まちづくりの推進</p> <p>○－(2)AED 活用の促進</p> <p>○－(3)コミュニティ活動の推進</p> <p>○－(4)港まち文庫事業</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>△：魅力的でにぎやかな港まちに集う</p> <p>△－(1)地蔵盆まつり</p> <p>△－(2)名古屋みなどをどり</p> <p>△－(3)アッセンブリッジ・ナゴヤとの連携事業</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>□：みんなと港まちを創る</p> <p>□－(1)港まちづくり協議会の新たな広報ツール作成</p> <p>□－(2)提案公募型事業</p> <p>□－(3)み(ん)などまちの拠点活用事業</p> <p>□－(4)調査検討事業</p> <p>□－(5)広報活動</p> <p>□－(6)事務局運営経費</p> </td> </tr> </table>		<p>○：心地よく安全な港まちで暮らす</p> <p>○－(1)防災・減まちづくりの推進</p> <p>○－(2)AED 活用の促進</p> <p>○－(3)コミュニティ活動の推進</p> <p>○－(4)港まち文庫事業</p>	<p>△：魅力的でにぎやかな港まちに集う</p> <p>△－(1)地蔵盆まつり</p> <p>△－(2)名古屋みなどをどり</p> <p>△－(3)アッセンブリッジ・ナゴヤとの連携事業</p>	<p>□：みんなと港まちを創る</p> <p>□－(1)港まちづくり協議会の新たな広報ツール作成</p> <p>□－(2)提案公募型事業</p> <p>□－(3)み(ん)などまちの拠点活用事業</p> <p>□－(4)調査検討事業</p> <p>□－(5)広報活動</p> <p>□－(6)事務局運営経費</p>
<p>○：心地よく安全な港まちで暮らす</p> <p>○－(1)防災・減まちづくりの推進</p> <p>○－(2)AED 活用の促進</p> <p>○－(3)コミュニティ活動の推進</p> <p>○－(4)港まち文庫事業</p>	<p>△：魅力的でにぎやかな港まちに集う</p> <p>△－(1)地蔵盆まつり</p> <p>△－(2)名古屋みなどをどり</p> <p>△－(3)アッセンブリッジ・ナゴヤとの連携事業</p>	<p>□：みんなと港まちを創る</p> <p>□－(1)港まちづくり協議会の新たな広報ツール作成</p> <p>□－(2)提案公募型事業</p> <p>□－(3)み(ん)などまちの拠点活用事業</p> <p>□－(4)調査検討事業</p> <p>□－(5)広報活動</p> <p>□－(6)事務局運営経費</p>			

7. 土地利用

① 用途地域等

- ・商業地域（容積率 400%、建ぺい率 80%）
- ・臨港地区
- ・準防火地域

② 名古屋港臨港地区内の分区における構築物の規制に関する条例

都市計画法に基づき指定された、港湾の管理運営を円滑に行うために必要な地区である「臨港地区」では、港湾の多様な機能に応じて目的別に分区を指定し、各分区における構築物を規制しています。

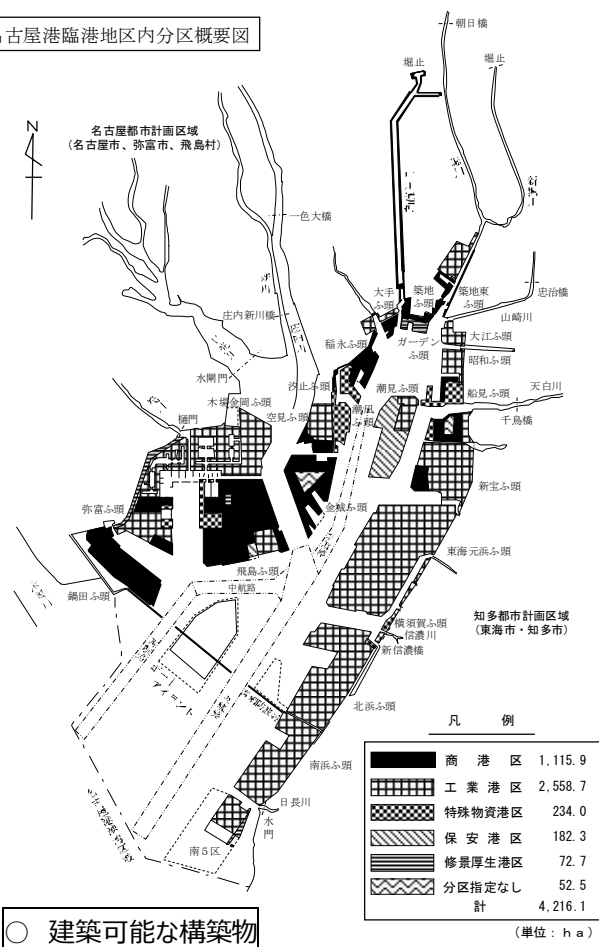
■ ガーデンふ頭で指定されている分区

分区	主な目的
修景厚生港区	その景観を整備するとともに港湾関係者の厚生を増進を図ることを目的とする区域

■ 構築物の規制一覧

用途	構築物	修景厚生港区
港湾法第2条第8項に属する港湾施設	第2号 外部施設	○
	防砂堤、防砂堤、防砂堤、水門、開門、護岸、堤防、突堤及び胸壁	
	第3号 係留施設	○
	岸壁、係留係、係船く、棧橋、浮桟橋、物揚場及び船揚場	
	第4号 臨港交通施設	○
	道路、駐車場、橋梁、鉄道、軌道、運河及びヘリポート	
	第5号 航行補助施設	○
	航路標識並びに船舶の入出港のための信号施設、照明施設及び港務通信施設	
	第6号 腐さばき施設	○
	腐さばき設備機械、軌道走行式防食機械、腐さばき地及び土層	
	第7号 旅客施設	○
	旅客乗降用固定施設、手荷物取扱所、待合所及び係留所	
	第8号 保管施設	○
	倉庫、野積場、貯木場、貯炭場、危険物置場及び野油施設	
第8号の2 船舶係留施設	○	
船舶のための積水施設、係留施設及び係留施設、船舶修理施設並びに船舶保管施設		
第9号 港湾公害防止施設	○	
汚濁水の浄化の防止のための施設のための専用地、公害防止用緩衝地帯その他の施設における公害の防止のための施設		
第9号の3 港湾環境整備施設	○	
高浜、緑地、広場、植栽、休憩所その他の港湾の環境の整備のための施設		
第10号 港湾厚生施設	○	
船舶乗組員及び港湾における労働者の体泊所、診療所その他の福利厚生施設		
第10号の2 港湾管理施設	○	
港湾事務所、港湾管理用材料倉庫その他の港湾の管理のための施設		
第12号 修動式施設	○	
修動式修動機械及び修動式修動機械用施設		
港湾の流通機能の高度化を図るための施設	トラックターミナル	
	中央卸売市場	
港湾の利用の高度化を図るための施設	腐さばき施設又は保管施設に附属する卸売展示施設及び流通加工施設並びにこれらの附属施設	○
	情報処理施設、電気通信施設 その他管理者が指定するこれらに類する施設	
港湾その場の効率に関する理解の増進を図るための施設	会議場施設、展示施設、研修施設その他の共同利用施設	○
	図書館、博物館、水族館、公会堂、展望施設 その他管理者が指定するこれらに類する施設	
港湾関係者の利便性の向上を図るための施設	日用品の販売を主たる目的とする店舗 (床面積の合計が200㎡以内のものに限る)	○
	飲食店（風営法第2条第1項の営業の用途に供するものを除く） その他管理者が指定する便益施設	○
	旅館及びホテル（風営法第2条第6項第4号の営業の用途に供するものを除く）、船用品販売店その他管理者が指定する便益施設	○
	郵便局、銀行及び保険業の店舗	○
事務所	ガソリンスタンド	
	海上運送事業、港湾運送事業、倉庫業、道路運送事業、貨物運送 取次事業その他管理者が指定する事業を行う者の事務所	○
工場	給油業者及び危険物を取り扱う業者の事務所	
	税関、地方運輸局、地方整備局、海上保安官署、検疫所、入国管理事務所、警察署、消防署その他管理者が指定する官公署の事務所	
リサイクル社会の形成を図るための施設	原料又は製品の一部の輸送を海上輸送又は港湾運送に依存する製造事業又はその関連事業を営む工場及びその附属施設	
危険防止施設	産業物又はリサイクル製品の一部の輸送を海上輸送に依存する産業物並びに名古屋港臨港地区及び港湾区域内で発生した産業物の処理施設（最終処分場を除く）	
	防火施設その他の危険防止施設	

名古屋港臨港地区内分区概要図



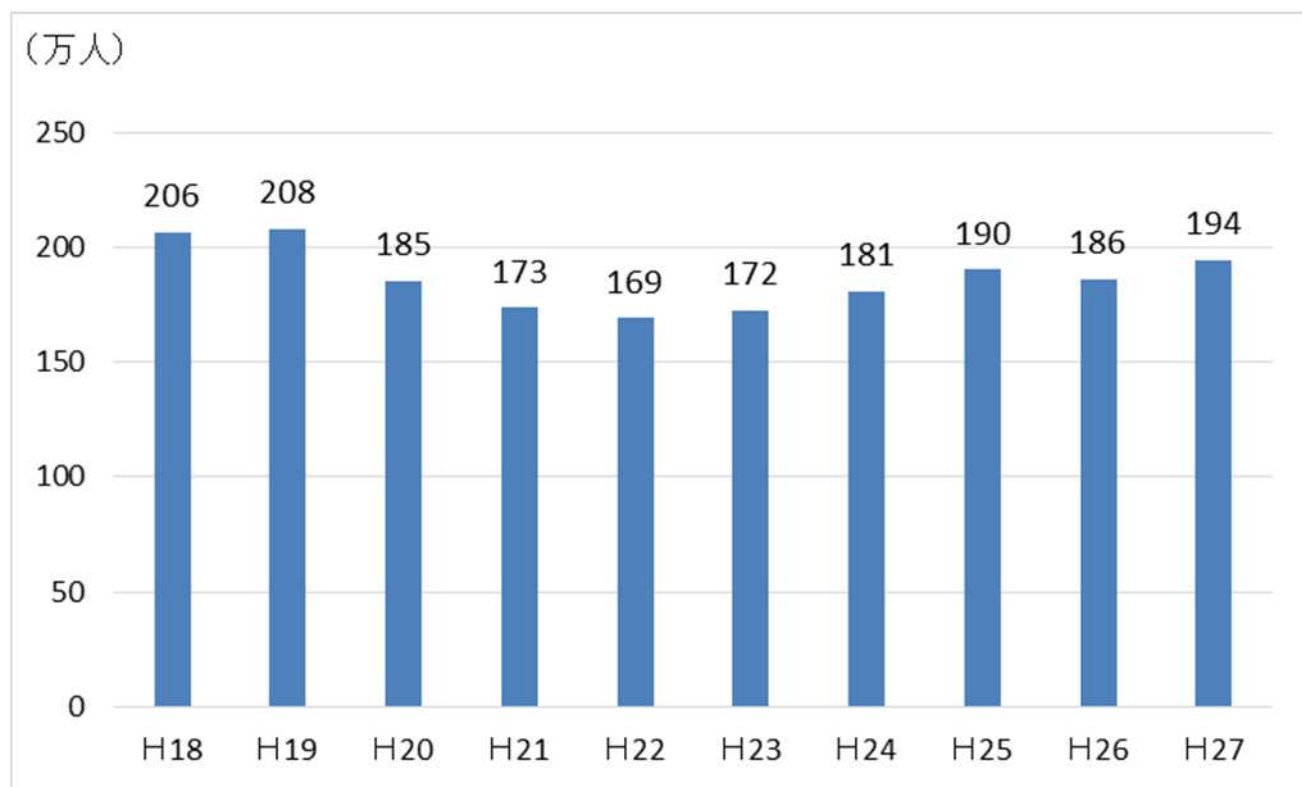
○ 建築可能な構築物

備考 名古屋港臨港地区内では、港湾活動と関係のある構築物のみ建設することができます。それぞれの分区の目的に合わない構築物の建設や用途の変更を禁止しています。「風営法」とは、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）のことをいいます。「○」のある構築物は基本的に建築可能ですが、港湾計画に支障があるなどの理由により建設できない場合があります。

8. その他

■地下鉄名古屋港駅の利用状況

＜名古屋港駅の乗車人員の推移＞



お問い合わせ先

名古屋港管理組合建設部総合開発課

〒455-0033 名古屋市港区港町 1 番 11 号

TEL : 052-654-7976 FAX : 052-654-7992



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙にリサイクルできます。

この印刷物は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。